

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2020年6月15日

【事業年度】 第21期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 さくらインターネット株式会社

【英訳名】 SAKURA internet Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 兼 最高経営責任者 田中 邦裕

【本店の所在の場所】 大阪市北区大深町4番20号

【電話番号】 06(6376)4800(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役最高財務責任者 川田 正貴

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区大深町4番20号

【電話番号】 06(6376)4800(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役最高財務責任者 川田 正貴

【縦覧に供する場所】 さくらインターネット株式会社 東京支社
(東京都新宿区西新宿七丁目20番1号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	12,086,493	13,961,972	17,033,374	19,501,463	21,908,899
経常利益 (千円)	822,054	804,406	574,445	395,841	789,644
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	553,498	548,871	349,469	91,639	160,091
包括利益 (千円)	553,498	548,690	351,316	148,501	206,464
純資産額 (千円)	4,424,059	7,609,200	7,889,655	7,344,144	7,424,308
総資産額 (千円)	18,588,068	26,005,361	26,111,454	31,158,936	28,787,225
1株当たり純資産額 (円)	127.46	202.26	209.03	199.06	201.10
1株当たり当期純利益 (円)	15.95	15.74	9.29	2.44	4.39
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	23.8	29.3	30.1	23.3	25.5
自己資本利益率 (%)	13.2	9.1	4.5	1.2	2.2
株価収益率 (倍)	86.6	58.2	81.7	202.7	106.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,547,242	1,852,721	3,067,888	2,231,274	4,582,193
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△2,550,062	△5,410,917	△1,382,827	△2,576,277	△2,973,593
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,940,835	4,349,483	△1,941,020	1,237,580	△2,541,492
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,077,672	4,868,773	4,612,747	5,505,373	4,572,321
従業員数 [ほか、平均臨時雇用人員] (名)	339 [51]	495 [79]	563 [72]	652 [70]	694 [61]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 2015年9月1日付けで普通株式1株につき普通株式4株の割合で株式分割を行っております。第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	11,831,243	13,151,248	14,841,403	16,894,207	18,547,419
経常利益 (千円)	812,254	790,933	612,762	575,857	658,986
当期純利益 (千円)	538,717	548,237	405,896	188,448	86,467
資本金 (千円)	895,308	2,256,921	2,256,921	2,256,921	2,256,921
発行済株式総数 (株)	34,710,400	37,620,700	37,620,700	37,620,700	37,620,700
純資産額 (千円)	4,409,279	7,593,967	7,905,035	7,400,248	7,395,512
総資産額 (千円)	18,516,889	25,522,416	25,414,731	28,755,073	27,326,496
1株当たり純資産額 (円)	127.03	201.86	210.13	202.86	202.73
1株当たり配当額 (円)	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	15.52	15.72	10.79	5.02	2.37
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.8	29.8	31.1	25.7	27.1
自己資本利益率 (%)	12.9	9.1	5.2	2.5	1.2
株価収益率 (倍)	89.0	58.3	70.3	98.6	196.6
配当性向 (%)	16.1	15.9	23.2	49.8	105.5
従業員数 (名)	330	394	413	473	532
[ほか、平均臨時雇用人員]	[50]	[43]	[20]	[11]	[6]
株主総利回り (%)	628.6	418.8	348.8	230.2	218.1
(比較指標：配当込みTOPIX)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	2,110 ※326	1,564	999	889	768
最低株価 (円)	265 ※289	760	710	397	333

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 2015年9月1日付けで普通株式1株につき普通株式4株の割合で株式分割を行っております。第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。また、株主総利回りについては、第16期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 最高・最低株価は、2015年11月27日より東京証券取引所市場第一部におけるものであり、それ以前は東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

5 ※印は、株式分割(2015年9月1日付けで1株につき4株の割合で実施)による権利落後の株価であります。

2 【沿革】

当社は、「エス・アール・エス有限会社」及び「有限会社インフォレスト」の共同出資により、1999年8月に大阪府大阪市中央区において設立され、両社の提供していたレンタルサーバサービスと専用サーバサービスを引き継ぎ、提供を開始しました。

その後、2000年4月に業務の効率化を目指して、出資者の2社を吸収合併し、商号を「エスアールエス・さくらインターネット株式会社」へ変更し、2004年7月に商号を「さくらインターネット株式会社」へ変更しました。

年月	概要
1999年8月	大阪府大阪市中央区において、レンタルサーバサービスと専用サーバサービスの提供を目的とした、さくらインターネット株式会社(資本金1,000万円)を設立。 レンタルサーバサービス及び専用サーバサービスを提供開始。
2000年4月	さくらインターネット株式会社を存続会社として、エス・アール・エス株式会社、有限会社インフォレストの2社を吸収合併し、商号を「エスアールエス・さくらインターネット株式会社」に変更。 ハウジング及びインターネット接続サービスを提供開始。
2004年7月	商号を「さくらインターネット株式会社」に変更。
2004年12月	大阪府大阪市中央区南本町一丁目8番14号に本社を移転。
2005年10月	株式会社東京証券取引所マザーズに株式を上場。 東京都新宿区西新宿二丁目7番1号に東京支社を移転。
2005年12月	サービスラインの強化を目的として、株式取得により株式会社イクスフェイズを子会社化。
2006年1月	サポートの充実やサービスラインの強化を目的として、株式取得により株式会社カイロスの子会社化。
2006年5月	ウェブサイトデザイン及び構築関連サービスの強化の目的として、子会社 さくらクリエイティブ株式会社を設立。
2006年8月	ローカライズに関するサービスの提供の強化として、子会社 SAKURA Internet (USA), Inc. を設立。
2007年7月	株式会社イクスフェイズ株式を譲渡し、子会社でなくなる。
2008年1月	株式会社カイロス株式を譲渡し、子会社でなくなる。
2008年2月	第三者割当増資により、双日株式会社が当社発行済株式の28.26%を保有する筆頭株主となる。
2008年3月	さくらクリエイティブ株式会社株式を譲渡し、子会社でなくなる。 SAKURA Internet (USA), Inc. 株式を譲渡し、子会社でなくなる。
2009年9月	東京都新宿区西新宿七丁目20番1号に東京支社を移転。
2011年3月	当社普通株式の公開買付けの実施と株式会社田中邦裕事務所との株主間合意により、双日株式会社が当社の親会社となる。
2011年11月	石狩データセンター運用開始。
2015年4月	ホスティングサービスの強化を目的として、株式取得により株式会社Joe'sクラウドコンピューティングを子会社化。
2015年11月	株式会社東京証券取引所市場第一部へ市場変更。
2016年5月	セキュリティ体制の強化とサービスラインナップ拡充を目的として、株式取得によりゲヒルン株式会社を子会社化。
2016年11月	さくらのIoT Platformのグローバル展開を目的として、子会社 櫻花移動通信有限公司を設立。
2017年1月	スケールメリット、システム運用技術・ノウハウ、エンタープライズ系の顧客基盤や市場でのプレゼンスの獲得を目的として、株式取得によりエヌシーアイ株式会社(同年5月 アイティーエム株式会社に商号変更)を子会社化。

年月	概要
2017年3月	当社普通株式の公募増資・双日株式会社による売出しの実施及び株式会社田中邦裕事務所との株主間合意の終了により、双日株式会社が当社の親会社ではなくなり、その他の関係会社となる。
2017年6月	大阪市北区大深町4番20号に本社を移転。
2017年9月	開発・運用技術に関するノウハウの活用による、より高品質なサービス提供を目的として、株式取得及び株主間合意により、ビットスター株式会社を子会社化。
2018年5月	ハイパフォーマンスコンピューティング領域のシステムインテグレーションサービスの提供を目的として、子会社プラナスソリューションズ株式会社を設立。
2018年8月	ストレージソフトウェア技術力の獲得を目的として、株式取得によりIzumoBASE株式会社を子会社化。
2019年4月	子会社のビットスター株式会社が、子会社の株式会社Joe'sクラウドコンピューティングを吸収合併。

[参考]

「エス・アール・エス有限会社」は、1997年6月に兵庫県明石市において設立されました。その後、2000年2月に本店を大阪市西区に移すとともに、「エス・アール・エス株式会社」へ組織変更をしました。「有限会社インフォレスト」は、1996年12月に創業された「さくらインターネット」を法人化する目的で、1998年4月に京都府舞鶴市において設立されました。

3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、連結子会社6社（ゲヒルン株式会社、櫻花移動通信有限公司、アイティーエム株式会社、ビットスター株式会社、プラナスソリューションズ株式会社、IzumoBASE株式会社）、関連会社3社（株式会社S2i、有限責任事業組合福岡市スタートアップ支援施設運営委員会、BBSakuraNetworks株式会社）、その他の関係会社1社（双日株式会社）の計11社で構成されており、自社グループでデータセンターの運営とインターネットのバックボーンを構築し、それらを基にしたインターネットインフラサービスを提供する事業を行っております。

当社グループが提供するサービスは、以下のとおりです。

① ハウジングサービス

当社グループが運営するデータセンター内に、顧客所有の通信機器類を自由に設置できるスペースと、インターネット接続に必要な回線や電源などを貸与するサービスです。

② 専用サーバサービス

当社グループが所有する物理サーバを、専用で利用できるサービス（「さくらの専用サーバ」など）です。独自にサーバの設定が可能であることや、ソフトウェアのインストールに制約が無いことなど、レンタルサーバサービスと比べて自由度の高い点が特徴です。

③ レンタルサーバサービス

当社グループが所有する物理サーバを、複数の顧客が共同で利用するサービス（「さくらのレンタルサーバ」など）と、専用で利用できるサービス（「さくらのマネージドサーバ」）です。サーバの設定やソフトウェアのインストールに一定の制約がありますが、専門知識を要するサーバのメンテナンスなどは当社グループが代行いたしますので、顧客の作業負担が大幅に軽減される点が特徴です。

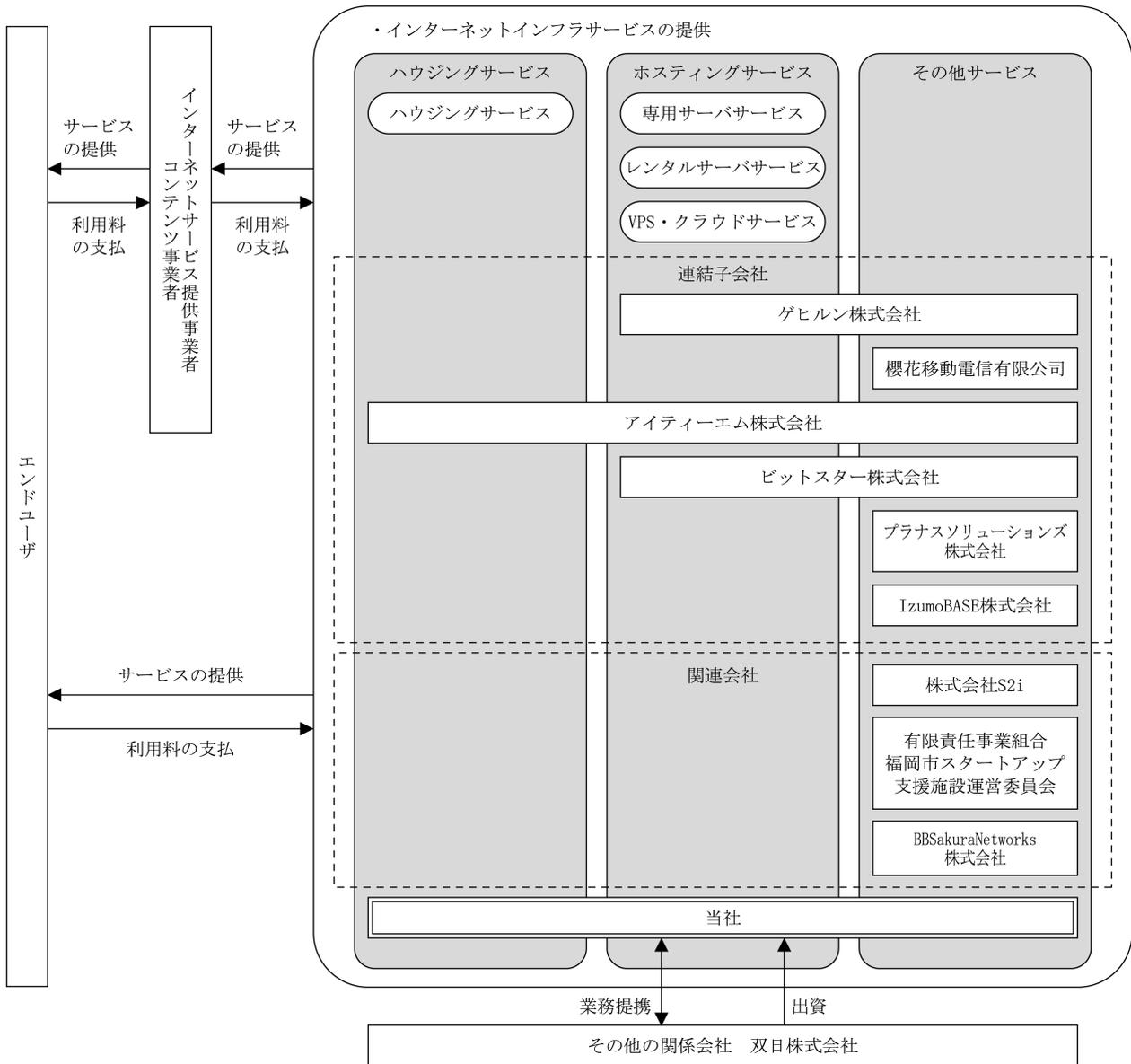
④ VPS・クラウドサービス

仮想化技術により、物理サーバ上に複数の仮想サーバを構築し、そのひとつひとつを専用サーバのように利用できるサービスです。基本的に仮想サーバ1台ごとの単体契約となるサービス（「さくらのVPS」など）と、契約の中で複数台サーバのお申し込みとそのネットワーク設定を可能とし、日割や時間割での課金が可能なサービス（「さくらのクラウド」など）があります。物理サーバよりも自由度が高く、優れたコストパフォーマンスが特徴です。

⑤ その他サービス

前述の主たる業務に付帯するサービスです。

当連結会計年度末における事業系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
ゲヒルン株式会社	東京都千代田区	15,780	ホスティング事業等	100.00	役員の兼任 1名
櫻花移動通信有限公司	香港	750,000香港ドル	電気通信事業、コン サルティング業務	100.00	役員の兼任 2名
アイティーエム株式会 社	東京都新宿区	75,000	ハウジング事業、ホ スティング事業等	100.00	役員の兼任 4名
ビットスター株式会社 (注) 1	札幌市中央区	10,000	インターネットサー ビス事業	60.00 [40.00]	役員の兼任 4名
ブラスソリューションズ株式会 社	東京都新宿区	100,000	システムインテグレ ーション事業	100.00	役員の兼任 1名
IzumoBASE株式会社	東京都新宿区	10,000	ストレージソフトウ ェア製品の開発・販 売事業	100.00	役員の兼任 3名
(持分法適用関連会社)					
株式会社S2i	東京都千代田区	20,000	ホームIoT関連事業	47.50	役員の兼任 1名
BBSakuraNetworks株式 会社	東京都新宿区	100,000	モバイルネットワー クソリューションの 提供	49.00	役員の兼任 4名
(その他の関係会社)					
双日株式会社 (注) 2	東京都千代田区	160,339,000	総合商社業	(被所有) 29.01	当社と業務提携契約を締結 しております。

(注) 1 「議決権の所有（又は被所有）割合」欄の〔外書〕は、同意している者の所有割合であります。

2 双日株式会社は、有価証券報告書提出会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
インターネットデータセンター事業	694[61]

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
- 2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 3 臨時従業員には、パートタイマー及び契約社員を含み、派遣社員を除いております。
- 4 当社グループは、インターネットデータセンター事業の単一セグメントであります。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
532[6]	38.02	6.26	5,719

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
- 2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 3 臨時従業員には、パートタイマー及び契約社員を含み、派遣社員を除いております。
- 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 5 当社は、インターネットデータセンター事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループにおいて、労働組合は結成されておきませんが、労使関係は良好に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針

当社は、「私たちは“インターネット”で熱量を持って挑戦する全ての人の「やりたいこと」を「できる」に変える」を会社の理念としており、デジタルトランスフォーメーション時代において、顧客の成功を支援するクラウドサービスの提供を通じて顧客満足度を向上させること（カスタマーサクセス）を事業上では重視し、この実現を目指しながら当社グループのシナジーを発揮することで全てのステークホルダーとともに成長するための努力が企業価値の増大につながるものと考えております。

(2) 経営環境

当社グループが属するインターネットインフラ市場は、デジタルトランスフォーメーションが進む中で、すべての企業が第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術）を利用するようになり、企業ITインフラのクラウドへの移行加速やデータ量の爆発的な増加が予想されており、当社グループの市場は今後も拡大が継続すると見込んでおります。

そのような状況の中、当社グループでは、データ蓄積、データ処理、データ転送及びそれに関連した付帯サービス等のインターネットインフラサービスを幅広いサービスラインナップで提供しております。なお、サービス別の内容は「事業の内容」に記載のとおりであります。また、グループ会社において、システムインテグレーション、サーバ・ネットワークの監視運用保守等の付加価値を提供しております。

当社の認識する競争優位性としましては、顧客のニーズや成長フェーズの変化に対応できる幅広いサービスラインナップ、開発・保守・運用・お客様サポート・システムインテグレーション等をグループ内において一気通貫で行う垂直統合型のビジネスモデルによる迅速かつ柔軟なサービス提供力、インターネット黎明期からの事業継続による40万件を超える顧客に支えられた安定的な収益基盤、多様な働き方を尊重する取り組みを継続してきたことによる人材獲得力がございます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急時対応のテレワークへの関心の高まりなどを背景に、今後IT投資がより加速することが予想されます。一方で、感染症拡大の長期化に対する懸念や企業活動の更なる制約により、景気の先行きについては予断を許さない状況となっております。当社といたしましては、現時点で新型コロナウイルス感染症拡大による大きな影響は見られておりませんが、先行きについては不透明であることから、現時点で入手し得る適正かつ合理的であると判断する一定の条件に基づき事業計画を策定しておりますが、今後の事業環境の推移を注視し、見直しが必要と判断した場合には適時開示してまいります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

デジタルトランスフォーメーションが進む中、当社は成長市場であるインターネットインフラ市場において、カスタマーサクセスの実現に向けて、当社グループ事業の重要な構成要素である①サービス、②ITインフラ、③テクノロジー、④セールスの強化を対処すべき課題としております。

① サービス

- ・優れた信頼性と圧倒的なコストパフォーマンスの両立を実現
- ・顧客の様々な事業ステージやIT戦略を支援するサービスラインナップの構築
- ・複数のサービスをシームレスに一元管理できる環境の提供

② ITインフラ

- ・国内有数規模のデータセンター事業者であるスケールメリットを最大限に活用
- ・各地域の特性を活かしたデータセンター運営とサービス供給体制の構築
- ・一気通貫のオペレーション体制による柔軟性と拡張性の強化

③ テクノロジー

- ・先進的なネットワーク技術の研究開発
- ・データセンターの省エネルギー化推進
- ・長年のデータセンター運営とホスティングサービスの提供で培ったノウハウのシステム化

④ セールス

- ・さくらブランド及びグループ会社との連携を活かし、顧客の支援を通じた中長期的なリレーションシップの構築
- ・パートナーシップの強化やスタートアップ支援による事業機会と顧客の拡大
- ・エンタープライズや大口顧客の個別ニーズに沿ったソリューションサービスを提供

(4) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、持続的な成長と安定した収益体質の実現を経営の目標としており、具体的には前期対比売上高成長率10%以上、売上総利益率30%以上、売上高対経常利益率10%以上の継続的な達成を目指しております。

(注) 将来に関する記載事項は当連結会計年度末現在において判断したものであり、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの事業活動において、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスク要因を、以下に記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資家に対する積極的な情報開示の観点から開示しております。ただし、以下の記載事項は、投資判断に関連するリスクのすべてを網羅するものではありませんので、ご注意ください。

当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。なお、記載中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(事業環境及び事業について)

① 他社との競合状態について

当社グループは、データセンター事業においてハウジングサービスからホスティング・クラウドサービスまで幅広いサービスを提供しております。

データセンター市場の堅調な成長が予想されるなか、当社グループは、顧客ニーズの高いサービスの提供やフルラインナップ化の推進、スケールメリットと柔軟性を兼ね備えたコスト競争力の高いITインフラサービスの提供、パートナーシップの強化などにより、競合他社との差別化やシェア拡大に努めておりますが、同業他社の中には、当社グループと比べ大きな資本力、販売力等の経営資源、高い知名度等を有しているものもあり、当社グループの競争力が低下する可能性があります。

② 安全対策について

データセンターの管理体制については、24時間有人管理体制をはじめ、ハウジングサービス契約者の入退室管理、監視カメラの設置、カードキーや生体認証による入退室時の情報管理など、細心の注意を払っております。また、火災への対策として、ガス式の消火設備や高感度の火災検知装置などを導入するとともに、専門業者による定期的な検査の実施や、社員による目視の安全点検を行っております。

通信設備につきましても、火災・地震などの災害に対して必要な防災措置を施し、電源やネットワークの非常時対策・データセンターの24時間監視に努めております。また、ファイアーウォール、接続回線の二重化、コンピュータウイルス防御などの安全対策も施しております。

しかしながら、予期せぬ自然災害や不法な行為、新型コロナウイルス感染症等の世界的な大流行（パンデミック）による設備封鎖などが生じた場合には、サービスの提供ができなくなり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染症について、現段階ではサービス提供への影響は認められません。当社では従来よりリモートワークや時差出勤の制度を導入しておりますが、在宅勤務を原則とした制度の導入や衛生管理の徹底、データセンターへの来館自粛の要請などの実施により、安定したサービスの提供を実現するとともに、当社従業員への感染予防に努めております。

③ データセンターの使用契約について

当社グループは、他のデータセンター事業者とデータセンターを賃借する契約を結び、一部のサービスを提供しております。

しかし、契約期間内であっても3ヶ月前までに通告することによって解消できるなどの条項が含まれており、その場合には当社グループの負担により当社グループの設備の撤去を行わなければならないこととなっております。そのため、契約先の経営悪化等により当社グループの予期せぬ契約の解消が生じた場合には、撤去費用もしくは他のデータセンターへの移転費用が予算を超えて計上されることとなり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

④ 個人情報保護法について

当社グループは、ビジネスユースの顧客からパーソナルユースの顧客まで幅広くサービスを提供しているため、多くの顧客情報を蓄積しております。このため当社グループは個人情報保護法に定める個人情報取扱業者に該当し、個人情報の取扱いについて規制の対象となっております。

当社グループでは、専門部門を設置し、個人情報の保護に関する規定の整備運用、システムのセキュリティ強化、役員・社員への定期的な教育を実施するなど個人情報保護への取り組みを推進しております。また、当社のサイト上のプライバシーポリシーにおいて、取り組みを提示しております。

昨今、コンピュータウイルス等の侵入、不正なアクセスのリスクが高まっております。当社グループが保有する顧客情報が業務以外で使用されたり、外部に流出したりする事態になりますと、対応コストの負担、顧客からの損害賠償請求、風評被害による申し込み数の低下や解約の発生などにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 法的規制について

当社グループは、電気通信事業者として届出等を行っており、電気通信事業法に定める「通信の秘密」や「利用の公平」などを遵守しております。また、特定商取引に関する法律及び特定電子メールの送信の適正化等に関する法律に定める広告・宣伝メールの送信や、不当景品類及び不当表示防止法に定める広告表示及び景品類の提供についても遵守するため、当社グループは、役員・社員に対して定期的に教育するとともに、法務担当者による法令適合性の審査を行っており、法令違反の発生を防止する体制作りを行っております。

しかし、万一これらの法令に規定される一定の事由に当社グループが該当した場合、所管大臣等から指導や業務改善等の命令もしくは罰則を受け、当社グループの業務に影響を及ぼす可能性があります。

また、将来的にこれらの法令の改正や当社グループの事業に関する分野を規制する法令等の制定、あるいは自主的な業界ルール等の制定等が行われた場合、当社グループの業務に影響を及ぼす可能性があります。

⑥ 出資や企業買収等について

当社グループは、既存事業に関連する領域を中心に出資や企業買収等を行っております。これらの実施にあたっては、事前に事業内容や財務状況等について、様々な観点から必要かつ十分な検討を行っております。しかしながら、出資や買収後に事業環境の急変や予期せぬ事象の発生等により、当初期待した成果をあげられない場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑦ コンテンツの内容について

当社グループでは、約款において禁止事項を定め、法令や公序良俗に反するなどのコンテンツを排除するよう努めております。当社グループの顧客が約款に反するコンテンツの設置をはじめとした違法行為を行った際、当社グループは、令状に従い、サーバに残されたデータやログを捜査当局に対して提出することがあります。今後、法的規制が強化された場合には、該当する設備をすべて差し押さえされる等の可能性があります。そのような場合には、サーバの使用ができなくなりサービスの提供が中断するなど、可用性が低下することから、当社グループの企業イメージの一時的な毀損、損害賠償責任の発生により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑧ 当社グループのサービスの不正利用について

当社グループでは、約款において会員ID・ユーザアカウント・各種パスワード等の管理に関し、当該サービス契約者が責任を負う旨を定めておりますが、第三者がこれらの情報を悪用し、もしくはサービス申込時に第三者を偽って大量のサービス利用等をした場合、サービス利用料の回収が困難となり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑨ 知的財産権について

当社グループでは、他者の知的財産権を侵害することがないように、事前に調査を実施しておりますが、サービスに用いる技術について他者の知的財産権を侵害している可能性を完全に排除することは困難です。他者の知的財産権を侵害しているとして損害賠償請求や使用差止等の訴訟が生じた場合、当社グループの企業イメージの一時的な毀損、損害賠償責任の発生、サービス提供が一時的に困難となる等、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑩ ネットワークセキュリティについて

インターネットに接続される環境下にあるコンピュータやサーバには、ウイルスへの感染、クラッキング、不正アクセス、DoS攻撃等によるサービス提供への影響や情報の流出等のリスクが常に存在します。当社グループでは、提供サービスやネットワークについて、適切なセキュリティ対策を講じておりますが、想定を超えた大規模な攻撃の発生もしくは当社グループの対策が十分に機能しなかった等の理由により、これらのリスクが現実に生じた場合、当社グループの企業イメージの一時的な毀損、損害賠償責任の発生、サービス提供が一時的に困難となる等、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑪ エネルギー価格や設備投資金額の上昇等について

当社グループは、多数のサーバ等機材をデータセンター内で稼働させることにより、サービスを提供しております。安定的な電力の供給と空調環境により支えられるサービスは、大量の電力を使用しており、電力価格が想定以上に上昇し、上昇分をサービス価格に反映できない場合などには、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社は石狩データセンターを自社で所有して運用しており、事業拡大に伴い継続的に増床を行っております。経済環境の変化等により、データセンターの建設や工事にかかる資材、人件費などが上昇し、これらをサービス価格に反映できない場合などにおいても、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑫ 固定資産の減損について

当社グループが保有する固定資産について、経営環境の著しい悪化により事業の収益性が低下して投資額の回収が見込めなくなった場合などには、固定資産の減損会計の適用による減損損失が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(事業体制について)

① 顧客の確保について

当社グループは、日進月歩の市場動向に合わせてより高品質なサービスの提供と価格の低廉化に努め、新規顧客の獲得と既存顧客の継続的なサービス提供を図っておりますが、これが計画どおりに進まない場合は当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。他方、顧客が急激に拡大するような局面においては、これに対応するためのバックボーンの整備が必要となります。当社グループといたしましては、今後も大容量の通信回線を確保することが可能と考えておりますが、十分な通信回線を適正な価格で確保できない場合には、事業機会の喪失や収益性低下の可能性がります。

② 内部管理体制について

当社グループは、企業価値の持続的な増大を図るにはコーポレート・ガバナンスが有効に機能することが不可欠であるとの認識のもと、業務の適正性及び財務報告の信頼性の確保、さらに健全な倫理観に基づく法令遵守の徹底を目的に、当社代表取締役社長直轄の独立した組織として内部監査室を設置する等、内部管理体制の充実に努めております。

しかしながら、事業環境の急速な変化などにより、十分な内部管理体制の構築が間に合わない場合には、一時的に管理面に支障が生じ、効率的な業務運営がなされない可能性があります。

③ 技術の進歩と人材確保について

今後、データセンター事業を展開していく中で、必要とされる新技術に迅速に対応できない場合、業界における競争力に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループが、新技術を導入しつつ今後の事業拡大を図っていくためには、優秀な人材を確保していく必要がありますが、人材確保が順調に進まない場合、重要な人材が離脱した場合又は積極的に人員を採用したこと等により人材関連費用を適切にコントロールすることができなかった場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

④ 資金調達について

当社グループは、データセンター設備やサーバなどの機材に関する投資、その他事業資金について、金融機関からの借入又はリース等を通じて資金調達を行っております。今後も、データセンターの増床や新サービス開発のための継続的な投資等を計画しており、安定的な資金調達を可能とするため、財務体質の強化に努めたいと考えております。

しかし、金融市場やその他外部環境において大きな変動が生じた場合には、資金調達が困難になる可能性や調達コストが増大する可能性があります。このような場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用関連会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等に関する認識及び分析・検討内容は次の通りであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府の各種政策効果の下支えもあり緩やかな回復が続いておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により足下で厳しい状況にあり、今後の国内外の景気についても先行き不透明な状況となっております。

当社グループの属するインターネットインフラサービス市場においては、デジタルトランスフォーメーションの取組みが進むとともに、複数のクラウドを利用するマルチクラウド化が浸透しつつあり、VPS・クラウドサービスを中心に安定した成長が続いております。

こうした状況のもと、当社グループはコストパフォーマンスに優れたインターネットインフラサービスを、多様なラインナップで提供することにより、他社との差別化を図るとともに、営業体制の強化、イベントの実施及びグループやパートナーとの連携強化などにより、販売力の向上に努めてまいりました。その結果、当連結会計年度の売上高は21,908,899千円（前連結会計年度比12.3%増）となりました。

営業利益につきましては、エンジニアの増員による人件費やサービス機材増加に伴う経費等の増加、IoTモジュール部品の不具合等による販売再開までの影響を考慮した簿価切下げ等がありましたが、売上高の増加などにより、939,206千円（前連結会計年度比65.6%増）となりました。

経常利益につきましては、営業利益の増加などにより、789,644千円（前連結会計年度比99.5%増）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、社内システムの開発見直しによるソフトウェア仮勘定等及び連結子会社の固定資産の一部等について減損損失を計上しましたが、経常利益の増加により、160,091千円（前連結会計年度比74.7%増）となりました。

なお、当連結会計年度におきましては、新型コロナウイルス感染症による当社グループの業績への大きな影響は見られておりません。

サービス別の状況は以下のとおりです。

① ハウジングサービス

首都圏内データセンター増加により価格競争の厳しい状況が続いており、ハウジングサービスの売上高は2,408,195千円（前連結会計年度比8.9%減）となりました。

② 専用サーバサービス

前第4四半期から提供開始した高火力コンピューティングサービスの大口案件等により、専用サーバサービスの売上高は5,055,090千円（前連結会計年度比26.4%増）となりました。

③ レンタルサーバサービス

機能改善等を継続して着実にユーザ数を積み増した結果、レンタルサーバサービスの売上高は3,380,151千円（前連結会計年度比3.1%増）となりました。

④ VPS・クラウドサービス

VPSサービスやクラウドサービスの新機能の継続的な追加等により、新規顧客の獲得や既存顧客の利用増加を図った結果、VPS・クラウドサービスの売上高は5,835,196千円（前連結会計年度比10.0%増）となりました。

⑤ その他サービス

グループ会社等での機器販売売上の増加等により、その他サービスの売上高は5,230,266千円(前連結会計年度比22.3%増)となりました。

(生産、受注及び販売の状況)

① 生産実績

記載すべき事項はありません。

② 受注実績

記載すべき事項はありません。

③ 販売実績

当連結会計年度の販売実績をサービス区分別に示すと、次のとおりであります。

サービス区分	販売高 (千円)	前年同期比 (%)
ハウジングサービス	2,408,195	△8.9
専用サーバサービス	5,055,090	+26.4
レンタルサーバサービス	3,380,151	+3.1
VPS・クラウドサービス	5,835,196	+10.0
その他サービス	5,230,266	+22.3
合計	21,908,899	+12.3

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当連結会計年度における販売実績の著しい変動の要因は、「(1) 経営成績の概況」に記載のとおりであります。

(2) 財政状態

当連結会計年度末における資産・負債及び純資産の状況とそれらの要因は次のとおりです。

① 資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,371,711千円減少し、28,787,225千円(前連結会計年度末比7.6%減)となりました。主な要因は、債務支払や借入金返済による現金及び預金の減少、減価償却による有形固定資産の減少によるものです。

② 負債

当連結会計年度末の負債の合計は、前連結会計年度末に比べ2,451,875千円減少し、21,362,917千円(前連結会計年度末比10.3%減)となりました。主な要因は、支払いによる債務の減少及び返済による借入金の減少によるものです。

③ 純資産

当連結会計年度末の純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ80,164千円増加し、7,424,308千円(前連結会計年度末比1.1%増)となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度と比べ933,052千円減少し、4,572,321千円（前連結会計年度比16.9%減）となりました。

各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ収入が2,350,918千円増加し、4,582,193千円（前連結会計年度比105.4%増）となりました。主な要因は、大口案件の入金や消費税等の還付があったことによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ支出が397,316千円増加し、△2,973,593千円（前連結会計年度比15.4%増）となりました。主な要因は、大口案件用機材費用等の支払いによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、△2,541,492千円（前連結会計年度は1,237,580千円の収入）となりました。主な要因は、前連結会計年度に大口案件用機材調達に伴う長期借入れによる収入が増加した一方、当連結会計年度には長期借入金の返済が進んだことによるものです。

(資本の財源及び資金の流動性について)

当社グループにおける資金の配分につきまして、適正な手元資金として月商の約2ヶ月分程度を目安とし、緊急の資金需要や当社を取り巻く様々な環境変化に伴うリスク等については借入等の資金調達枠を確保いたします。

当社グループの資金需要は主にサービス提供にかかる設備投資資金です。当社グループが属するインターネットインフラ市場は今後も拡大が見込まれており、当社が事業運営において重視するカスタマーサクセスの実現にはデータセンターネットワーク設備等への継続的な投資が不可欠なものであると認識しております。株主還元につきましては、当社グループは成長フェーズにあると考えており、持続的成長と収益力確保のため原資を確保しつつ、株主様への一定の利益還元を両立させたいと考えております。

資金調達につきましては、賞与・納税等の短期運転資金は自己資金及び借入を基本とし、設備投資資金や長期運転資金は自己資金、借入及びリースを基本とすることで、事業運営上必要な資金の安定的な確保に努めており、設備効率の向上によるキャッシュ・フローのさらなる創出と、財務の安全性を確保しながらの成長投資を見極めてまいります。

なお、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は14,371,750千円、資金の残高は4,572,321千円となっております。

(4) 経営者の視点による当社グループの経営成績等に関する認識等

当社グループは、持続的な成長と安定した収益体質の実現を経営の目標としており、具体的には前期対比売上高成長率10%以上、売上総利益率30%以上、売上高対経常利益率10%以上の継続的な達成を目指しました。

当連結会計年度においては、市場機会を捉えて成長するため、成長分野における事業活動と投資により売上高成長率を高めることに注力し、前期対比売上高成長率は12.3%となりました。利益面につきましては、売上総利益率は26.6%、売上高対経常利益率は3.6%となりましたが、成長のためのサービス機材投資や人材獲得によるものであり、中長期的な目標とする経営指標の達成に向けて、売上高成長率の向上が先行しております。

今後の見通しにつきましては、当社グループの属するインターネットインフラ市場は、デジタルトランスフォーメーションが進む中、クラウドの堅調な成長が続くと予想されております。このような環境の中、当社グループは成長市場であるクラウド市場における顧客の成功を支援するプラットフォームを目指し、カスタマーサクセス実現への注力、既存顧客基盤の活用、パートナー及びグループ会社との連携強化による付加価値の提供等を推進してまいります。

売上高につきましては、クラウドビジネスの強化とともに、提供実績が着実に増加傾向にある公共文教分野、研究機関等の特定分野、民間企業の大口提供等については、これまでの提供ノウハウを活用し、より一層の販売強化に努めてまいります。

経費につきましては、ハウジングサービスの売上高減少と、将来の継続的な成長やカスタマーサクセス実現のためのデータセンター設備の最適化や機器リプレイスの投資に加え、働きやすさ・働きがいのさらなる向上に向けた取り組みなどを積極的に行うことにより、先行的に費用が発生する見通しです。

なお、新型コロナウイルス感染症への対応としましては、当社は日頃より「働き方の多様性を尊重する取り組み」の一環として、テレワークや時差出勤など柔軟な働き方を可能とする社内制度の確立と実際の活用が進んでおり、加えて2020年3月2日より原則在宅勤務とすることにより感染症の拡大防止に努めております。

また、当該感染症の規模拡大による影響について、当社業務に大きな影響はございませんが、お客様の状況等について現時点で見通すことが困難であり、今後の当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(5) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。なお、現時点では新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について、当社グループの業績に大きな影響はございませんが、お客様の状況等について現時点で見通すことが困難なため、見積りには含んでおりません。連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。

① 固定資産の減損

当社グループは、固定資産の減損に係る回収可能性の評価にあたり、各社ごとに資産のグルーピングを行い、収益性が著しく低下した資産グループについて、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として計上しています。

固定資産の回収可能価額について、将来キャッシュ・フロー、割引率、正味売却価額等の前提条件に基づき算出しているため、当初見込んでいた収益が得られなかった場合や、将来キャッシュ・フロー等の前提条件に変更があった場合、固定資産の減損を実施し、当社グループの業績を悪化させる可能性があります。

② 繰延税金資産の回収可能性

当社グループは、繰延税金資産について定期的に回収可能性を検討し、当該資産の回収が不確実と考えられる部分に対して評価性引当額を計上しています。回収可能性の判断においては、将来の課税所得見込額と実行可能なタックス・プランニングを考慮して、将来の税金負担額を軽減する効果を有すると考えられる範囲で繰延税金資産を計上しています。

将来の課税所得見込額はその時の業績等により変動するため、課税所得の見積に影響を与える要因が発生した場合は、回収懸念額の見直しを行い繰延税金資産の修正を行うため、当期純損益額が変動する可能性があります。

4 【経営上の重要な契約等】

記載すべき事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社は、インターネット技術に関するさまざまな研究を行う専門部署として「さくらインターネット研究所」があります。本研究所では、インターネット技術に関する調査・研究を通じ、当社事業へのフィードバックと技術スタッフの育成、研究成果の発信を行います。

なお、当連結会計年度における研究開発費の総額は97,882千円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、データセンター設備の高い稼働率を維持することを目的とした設備投資を行っております。当連結会計年度における設備投資総額（有形固定資産及びソフトウェアの受入ベース数値。金額には消費税等は含んでおりません。）は、1,553,755千円であり、主に各データセンターの設備強化や機材調達等によるものです。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積 m ²)	リース 資産	その他	合計	
本社 (大阪市北区)	事務所	93,255	59,264	—	49,683	20,417	222,621	125 (4)
東京支社 (東京都新宿区)	事務所	69,248	141,779	—	215,146	367,642	793,817	321 (2)
福岡オフィス (福岡市中央区)	事務所	6,305	2,713	—	298	—	9,317	4 (—)
堂島 データセンター (大阪市北区)	ネットワー ク設備	21,600	69,044	—	321,398	2,479	414,523	23 (—)
東新宿 データセンター (東京都新宿区)	ネットワー ク設備	16,718	125,098	—	328,064	—	469,882	8 (—)
西新宿 データセンター (東京都新宿区)	ネットワー ク設備	219,875	85,441	—	430,706	1,146	737,169	2 (—)
代官山 データセンター (東京都渋谷区)	ネットワー ク設備	28,066	28,339	—	273,589	—	329,995	6 (—)
石狩 データセンター (北海道石狩市)	ネットワー ク設備	7,221,592	2,756,300	640,139 (51,448.11)	4,468,071	50,203	15,136,308	39 (—)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、その他の無形固定資産であり、のれん、建設仮勘定及びソフトウェア仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等は含んでおりません。
- 2 事務所及びデータセンターの賃借料の総額は2,138,340千円です。
- 3 従業員数の()は、臨時従業員数を外書しております。
- 4 リース契約による主な賃借設備（賃貸借処理によるもの）は、次のとおりであります。

設備の内容	リース期間	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
サーバ器材 (オペレーティング・リース)	3年～5年	1,041,079	2,330,330
データセンター設備 (オペレーティング・リース)	4年～10年	192,720	882,309

(2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額 (千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	工具、器具 及び備品	リース 資産	その他	合計	
ゲヒルン株式会社	本社等 (東京都千代田区)	事務所等	2,612	1,787	—	490	4,890	9 (5)
アイティーエム株式会 社	本社等 (東京都新宿区)	事務所等	—	1,279	—	—	1,279	53 (29)
ビットスター株式会社	本社等 (札幌市中央区)	事務所等	14,525	11,988	—	5,347	31,861	80 (17)
プラナスソリューショ ンズ株式会社	本社等 (東京都新宿区)	事務所等	—	19,680	18,376	24,036	62,092	15 (—)
IzumoBASE株式会社	本社等 (東京都新宿区)	事務所等	—	425	—	—	425	5 (4)

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、その他の無形固定資産であり、建設仮勘定及びソフトウェア仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等は含んでおりません。
- 2 事務所及びデータセンターの賃借料の総額は381,991千円です。
- 3 従業員数の()は、臨時従業員数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	99,200,000
計	99,200,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	37,620,700	37,620,700	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	37,620,700	37,620,700	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年9月1日 (注)1	26,032,800	34,710,400	—	895,308	—	250
2017年3月7日 (注)2	2,165,300	36,875,700	1,013,057	1,908,365	1,013,057	1,013,307
2017年3月28日 (注)3	745,000	37,620,700	348,555	2,256,921	348,555	1,361,862

(注)1 株式分割(1:4)によるものであります。

2 有償一般募集

発行価格 976円

発行価額 935.72円

資本組入額 467.86円

3 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 935.72円

資本組入額 467.86円

割当先 SMBC日興証券株式会社

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	19	39	123	44	34	22,879	23,138	—
所有株式数(単元)	—	27,318	8,246	154,957	8,727	178	176,669	376,095	11,200
所有株式数の割合(%)	—	7.26	2.19	41.20	2.32	0.05	46.98	100.00	—

(注) 自己株式1,140,644株は、「個人その他」に11,406単元、「単元未満株式の状況」に44株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
双日株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目1-1	10,585,600	29.01
田中 邦裕	大阪府大阪市阿倍野区	5,496,000	15.06
鷺北 賢	東京都目黒区	1,096,000	3.00
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	947,500	2.59
萩原 保克	岡山県岡山市中区	525,200	1.43
菅 博	大阪府大阪市中央区	467,600	1.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	441,400	1.20
さくらインターネット従業員持株会	大阪府大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA35F	439,300	1.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	360,100	0.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	東京都中央区晴海1丁目8-11	269,400	0.73
計	—	20,628,100	56.54

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	947,500株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	441,400株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	360,100株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	269,400株

2 上記の当社代表取締役社長田中邦裕の所有株式数は、同役員の資産管理会社である株式会社田中邦裕事務所が保有する株式数を含めた実質所有株式数を記載しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,140,600	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 36,468,900	364,689	—
単元未満株式	普通株式 11,200	—	—
発行済株式総数	37,620,700	—	—
総株主の議決権	—	364,689	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式44株が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) さくらインターネット 株式会社	大阪市北区大深町 4番20号	1,140,600	—	1,140,600	3.03
計	—	1,140,600	—	1,140,600	3.03

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(—)	—	—	—	—
保有自己株式数	1,140,644	—	1,140,644	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、持続的成長と収益力確保のため、一定の原資を内部留保するとともに、業績の進展状況に応じた株主様に対する利益還元を両立させたいと考えております。

剰余金の配当については、中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。

このような方針の下、当事業年度末の配当金につきましては、2020年6月26日開催予定の定時株主総会で、1株当たり2円50銭の普通配当を決議する予定であります。内部留保につきましては、事業基盤強化のため、データセンターへの設備投資などに活用したいと考えております。

なお、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2020年6月26日 定時株主総会決議予定	91,200	2.50

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、当社が企業規模を拡大していくのに並行して、経営管理組織の整備を推進し、各部門の効率的・組織的な運営及び内部統制の充実を図ることであり、その基本姿勢を基に現在まで努力してまいりました。特に、インターネット業界は、目に見えない多数の利用者に対して通信施設を開放しており、世界中のインターネット利用者を市場として成立している事業でありますので、他業界以上の大きな社会的責任を背負っております。当社におけるコーポレート・ガバナンスの確立は、このような社会的責任を果たしていくことを可能にする経営基盤であると考えております。

② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、企業経営及び会計等の専門的見地を有する社外監査役及び常勤監査役が、内部監査部門と連携して監査を行うことにより、業務の適正を確保していると考えているため、監査役会設置会社を採用しております。

取締役・取締役会

当社の取締役会是有価証券報告書提出日現在において、代表取締役社長兼最高経営責任者田中邦裕、川田正貴、伊勢幸一並びに社外取締役畑下裕雄、猪木俊宏及び廣瀬正佳の6名で構成しております。

現在、定時取締役会は毎月一回開催しており、経営上の重要な事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、取締役会に諮るべき事項及び重要な業務執行については、迅速かつ適切な対応を図るべく臨時の取締役会を適宜開催し、機動的な意思決定を行っております。

監査役・監査役会

現在、当社では、常勤監査役野崎國弘並びに社外監査役梅木敏行、長谷川浩之及び星野隆弘の4名の監査役がその任に当たっております。監査役は、年度監査役監査方針及び監査計画に基づいて監査を実施しております。各監査役は、コーポレート・ガバナンスの一翼を担う独立の機関であるとの認識の下に、取締役会その他の重要会議に出席し、必要な場合は意見を述べております。

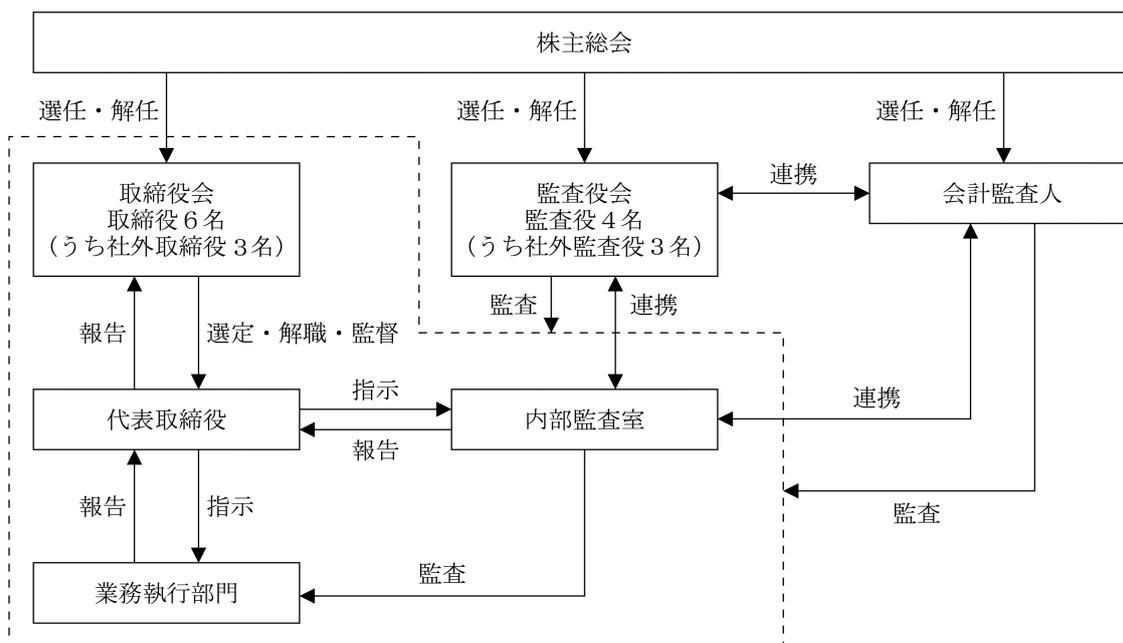
また現在、監査役会は毎月一回開催しているほか、必要に応じて随時監査役会を開催しており、監査役全員によって構成されます。

内部監査室

当社では、代表取締役社長直轄の内部監査室（専任1名）を設置し、各部門における業務全般にわたる監査を内部監査計画に基づいて行っております。内部監査室では、被監査部門に対して具体的な助言・勧告・業務改善状況の確認を行うと共に、監査役や会計監査人との意見交換等により、内部統制組織の監査及び牽制を行っております。

会計監査

当社は、EY新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しており、独立監査人として金融商品取引法第193条の2の第1項及び第2項の規定に基づく監査を受けております。また、年度監査役監査方針及び監査計画の策定や、監査役の会計監査の実施に際し相互に連携を行い、また、会計上の重要事項につきましては適宜アドバイスを受けております。



③ 企業統治に関するその他の事項

イ 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は、経営の意思決定・監督機関としての取締役会と、その意思決定に基づく業務執行体制としての執行役員を設けており、経営の意思決定と業務執行の分離の確立を図っております。

取締役会は、社外取締役3名を含む取締役6名で構成され、社外監査役3名を含む監査役4名も出席しており、意思決定及び監督の実効性は確保されております。

また、当社では、社内諸規程に基づく適切な権限管理により業務を遂行するとともに、職務権限規程に基づく承認体制を構築しております。当社の内部統制システムの有効性を継続的に評価するために、各部門における重要業務についてフローチャートを作成し、内部監査室により業務の有効性及び正確性を監査しております。

ロ リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、リスク管理規程を制定し、企業活動の持続的発展を阻害するリスクに適切に対処するシステムの構築に努めております。代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会を設置し、全社的なリスク管理体制の運用状況の確認及び問題点に対する是正の検討を行い、必要に応じて取締役会に報告しております。

ハ 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、グループ会社管理規程に基づき、子会社における業務の有効性と効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守及び資産の保全状況を管理しております。また、内部監査室による子会社内部監査結果の代表取締役社長への報告や、必要に応じた取締役及び監査役の派遣などにより、子会社の業務の適正を確保しております。

ニ 責任限定契約の内容の概要

(業務執行取締役等でない取締役との間で締結した責任限定契約の内容の概要)

当社は、会社法第427条第1項に基づき、業務執行取締役等でない取締役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定めた最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

(監査役との間で締結した責任限定契約の内容の概要)

当社は、会社法第427条第1項に基づき、監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定めた最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

(会計監査人との間で締結した責任限定契約の内容の概要)

当社は、会社法第427条第1項に基づき、会計監査人との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定めた最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

ホ 取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款に定めております。

ヘ 取締役選任の決議要件

当社の株主総会における取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

ト 取締役解任の決議要件

当社の株主総会における取締役の解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

チ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(自己株式の取得)

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

(中間配当)

当社は、会社法第454条第5項の規定により、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議をもって毎年9月30日を基準日とした中間配当として剰余金の配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(取締役と監査役の責任免除)

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

リ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の定める株主総会の決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性10名 女性一名 (役員のうち女性の比率-%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長 最高経営責任者	田中邦裕	1978年1月14日	1996年12月 さくらインターネット創業 1998年4月 株式会社インフォレスト設立 代表取締役 1999年8月 当社設立 代表取締役社長 2000年12月 当社代表取締役副社長 2004年6月 当社取締役最高執行責任者 2007年11月 当社代表取締役社長兼最高経営責任者 2008年6月 当社代表取締役社長(現任) 2009年8月 株式会社田中邦裕事務所設立 代表取締役社長(現任) 2010年7月 当社内部監査室室長 2010年11月 当社新規事業室室長 2011年5月 当社開発部部长 2011年10月 当社企画部部长 2014年4月 当社人事部部长 2014年7月 当社インターネットサービス事業部部长 2015年4月 株式会社Joe'sクラウドコンピューティング代表取締役兼最高経営責任者 2015年7月 当社最高経営責任者(現任) 2016年10月 株式会社アイモバイル社外取締役(現任) 2018年4月 株式会社Joe'sクラウドコンピューティング取締役 2019年6月 株式会社i-plug社外取締役(現任) 2019年12月 株式会社ABEJA社外取締役(現任)	(注)3	5,496,000
取締役 最高財務責任者 管理本部人事部部长	川田正貴	1971年8月5日	1995年4月 株式会社第一勧業銀行(現株式会社みずほ銀行) 1997年12月 門井税務会計事務所 2002年8月 山本守税理士事務所 2004年4月 株式会社PPMビジネスサポート取締役 2005年4月 当社入社 2005年9月 シムデスクテクノロジー株式会社財務部部长 2006年11月 同社代表取締役 2008年4月 当社入社 企画部副部长 2008年6月 当社取締役(現任) 2009年10月 当社経理財務部部长 2015年7月 当社最高財務責任者(現任) 当社管理本部副本部部长 当社管理本部総務部部长 2017年1月 当社管理本部部部长 当社管理本部総務部部长 当社管理本部人事部部长(現任) 2018年5月 プラナスソリューションズ株式会社監査役(現任) 2019年11月 アイティーエム株式会社取締役(現任)	(注)3	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	伊勢 幸一	1962年11月26日	1986年4月 1989年5月 1996年3月 1997年4月 2002年1月 2002年11月 2005年4月 2005年9月 2007年5月 2008年10月 2012年1月 2014年9月 2016年6月	日立設備エンジニアリング株式会社（現株式会社日立パワーソリューションズ） デジタルテクノロジー株式会社 株式会社スクウェア（現株式会社スクウェア・エニックス） SQUARE USA INC. ホノルルススタジオ 出向 株式会社スクウェア（現株式会社スクウェア・エニックス）ネットワーク技術部部长 同社情報技術部副部长 同社ネットワークシステム部部长 株式会社ライブドア（現NHNテコラス株式会社） 同社ネットワーク事業部執行役員 株式会社フォーサイトウェブ取締役（現任） 株式会社ライブドア（現NHNテコラス株式会社）情報環境研究室室長 株式会社データホテル（現NHNテコラス株式会社）情報環境研究室室長 テコラス株式会社（現NHNテコラス株式会社）情報技術研究室室長 当社取締役（現任）	(注) 3	—
取締役	畑下 裕雄	1972年12月2日	1995年4月 1998年4月 2000年10月 2002年10月 2005年4月 2007年7月 2010年5月 2014年1月 2015年6月 2017年7月 2018年6月	朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人） 公認会計士登録 Arthur Andersen Portland事務所 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）マネージャー 株式会社プロキューブジャパン設立 代表取締役社長（現任） 公認内部監査人（CIA）認定 税理士登録 株式会社Lyudia（現Ingenico Japan株式会社）監査役（現任） 当社社外取締役（現任） 株式会社タジマ監査役（現任） 株式会社コラボス監査役（現任）	(注) 4	—
取締役	猪木 俊宏	1968年7月6日	1998年4月 2004年12月 2007年7月 2009年9月 2011年7月 2013年2月 2014年10月 2016年6月 2016年10月 2016年12月 2018年1月	弁護士登録 三井安田法律事務所 三井法律事務所 特定非営利活動法人コモンズフィア理事（現任） サイバーボンド株式会社設立 代表取締役（現任） 株式会社コンテンツアンドシステムズ取締役 猪木法律事務所開設（現任） 株式会社メルカリ社外監査役（現任） 株式会社ゼロスタート（現ZETA株式会社）社外監査役（現任） 当社社外取締役（現任） 株式会社アベルザ社外監査役（現任） システムサービス株式会社社外監査役（現任） 株式会社ハヤルカ社外監査役（現任）	(注) 3	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	廣瀬 正佳	1968年6月15日	1992年4月 2008年4月 2009年4月 2014年9月 2016年4月 2018年4月 2018年6月 2019年11月 2019年11月	日商岩井株式会社(現双日株式会社) 双日オートモーティブエンジニアリング株式会社(現双日オートランス株式会社) 出向 双日欧州会社デュッセルドルフ支店 双日株式会社電力・環境インフラ事業部交通プロジェクト課課長 同社交通・社会インフラ事業部副部长 同社エネルギー・社会インフラ本部社会インフラ開発室室長(現任) 当社社外取締役(現任) edotco Investments Singapore Pte. Ltd. Director(現任) edotco Myanmar Limited Director(現任)	(注)3	—
監査役 (常勤)	野崎 國弘	1942年2月19日	1997年12月 2001年4月 2005年6月	中央情報システム株式会社(現システムギア株式会社) 経営企画部部长 エスアールエス・さくらインターネット株式会社(現当社) 経営企画室室長 当社常勤監査役(現任)	(注)5	—
監査役	梅木 敏行	1955年6月19日	1994年12月 2001年2月 2006年9月 2008年10月 2014年4月 2014年9月	和港工業株式会社(現オシリス株式会社) 代表取締役社長 エスアールエス・さくらインターネット株式会社(現当社) 監査役 当社社外監査役(現任) オシリス株式会社取締役(現任) 明建工業株式会社取締役 明建工業株式会社代表取締役(現任)	(注)6	—
監査役	長谷川 浩之	1968年12月29日	1991年9月 1996年4月 1996年5月 1998年11月 2000年11月 2010年7月 2010年12月 2016年6月 2018年3月	井上斎藤英和監査法人(現有限責任あずさ監査法人) 公認会計士登録 Arthur Andersen シンガポール事務所 松下寿電子工業株式会社(現PHCホールディングス株式会社) 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ) 長谷川公認会計士事務所開設 代表(現任) 税理士登録 当社社外監査役(現任) みのりパートナーズ株式会社設立 代表取締役(現任)	(注)6	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役	星野隆弘	1965年1月11日	1987年4月	株式会社日本興業銀行（現株式会社みずほ銀行）	(注) 7	—
			1999年2月	同行ニューヨーク支店		
			2002年4月	株式会社みずほコーポレート銀行（現株式会社みずほ銀行）本店企業第五部		
			2003年12月	同行本店営業第五部		
			2007年2月	双日株式会社		
			2007年4月	同社リスク管理企画部総合企画課長		
			2008年11月	双日食料株式会社監査役		
			2012年7月	双日九州株式会社監査役		
			2013年1月	双日米国会社リスク管理部長		
			2016年5月	双日株式会社戦略投資推進室部長代理		
			2018年4月	同社リスク管理企画部担当部長		
			2018年6月	同社海外業務部担当部長（現任） 当社社外監査役（現任）		
			2019年2月	株式会社五島列島酒造取締役（現任）		
計						5,496,000

- (注) 1 取締役畑下裕雄、猪木俊宏及び廣瀬正佳は、社外取締役であります。
- 2 監査役梅木敏行、長谷川浩之及び星野隆弘は、社外監査役であります。
- 3 取締役田中邦裕、川田正貴、伊勢幸一、猪木俊宏及び廣瀬正佳の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 取締役畑下裕雄の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役野崎國弘の任期は、2017年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役梅木敏行及び長谷川浩之の任期は、2016年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役星野隆弘の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 代表取締役社長田中邦裕の所有株式数は、同役員の資産管理会社である株式会社田中邦裕事務所が保有する株式数を含めた実質所有株式数を記載しております。

2020年6月26日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として「取締役8名選任の件」及び「監査役3名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、当社の役員状況は、以下のとおりとなる予定です。

男性11名 女性2名（役員のうち女性の比率15.3%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長 最高経営責任者	田中邦裕	1978年1月14日	1996年12月 さくらインターネット創業 1998年4月 株式会社インフォレスト設立 代表取締役 1999年8月 当社設立 代表取締役社長 2000年12月 当社代表取締役副社長 2004年6月 当社取締役最高執行責任者 2007年11月 当社代表取締役社長兼最高経営責任者 2008年6月 当社代表取締役社長（現任） 2009年8月 株式会社田中邦裕事務所設立 代表取締役社長（現任） 2010年7月 当社内部監査室室長 2010年11月 当社新規事業室室長 2011年5月 当社開発部部長 2011年10月 当社企画部部長 2014年4月 当社人事部部長 2014年7月 当社インターネットサービス事業部部長 2015年4月 株式会社Joe'sクラウドコンピューティング代表取締役兼最高経営責任者 2015年7月 当社最高経営責任者（現任） 2016年10月 株式会社アイモバイル社外取締役（現任） 2018年4月 株式会社Joe'sクラウドコンピューティング取締役 2019年6月 株式会社i-plus社外取締役（現任） 2019年12月 株式会社ABEJA社外取締役（現任）	(注)3	5,496,000
取締役 最高財務責任者 管理本部人事部部长	川田正貴	1971年8月5日	1995年4月 株式会社第一勧業銀行（現株式会社みずほ銀行） 1997年12月 門井税務会計事務所 2002年8月 山本守税理士事務所 2004年4月 株式会社PPMビジネスサポート 取締役 2005年4月 当社入社 2005年9月 シムデスクテクノロジー株式会社 財務部長 2006年11月 同社代表取締役 2008年4月 当社入社 企画部副部長 2008年6月 当社取締役（現任） 2009年10月 当社経理財務部部长 2015年7月 当社最高財務責任者（現任） 当社管理本部副本部長 当社管理本部総務部部长 2017年1月 当社管理本部本部長 当社管理本部総務部部长 当社管理本部人事部部长（現任） 2018年5月 プラナスソリューションズ株式会社 監査役（現任） 2019年11月 アイティーエム株式会社 取締役（現任）	(注)3	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	伊 勢 幸 一	1962年11月26日	1986年4月 1989年5月 1996年3月 1997年4月 2002年1月 2002年11月 2005年4月 2005年9月 2007年5月 2008年10月 2012年1月 2014年9月 2016年6月	日立設備エンジニアリング株式会社（現株式会社日立パワーソリューションズ） デジタルテクノロジー株式会社 株式会社スクウェア（現株式会社スクウェア・エニックス） SQUARE USA INC. ホノルルススタジオ 出向 株式会社スクウェア（現株式会社スクウェア・エニックス）ネットワーク技術部部长 同社情報技術部副部长 同社ネットワークシステム部部长 株式会社ライブドア（現NHNテコラス株式会社） 同社ネットワーク事業部執行役員 株式会社フォーサイトウェブ取締役（現任） 株式会社ライブドア（現NHNテコラス株式会社）情報環境研究室室長 株式会社データホテル（現NHNテコラス株式会社）情報環境研究室室長 テコラス株式会社（現NHNテコラス株式会社）情報技術研究室室長 当社取締役（現任）	(注) 3	—
取締役	前 田 章 博	1981年9月18日	2000年5月 2002年5月 2008年3月 2012年3月 2014年3月 2014年5月 2017年10月 2017年11月 2018年5月 2019年8月	株式会社ルートルーム ダットジャパン株式会社 ビットスター株式会社代表取締役（現任） クラウドネットワークス株式会社取締役（現任） 株式会社ノースグリッド取締役（現任） MOKUZY株式会社代表取締役 当社執行役員（現任） 株式会社Joe'sクラウドコンピューティング取締役 同社代表取締役 アイティーエム株式会社取締役（現任）	(注) 3	—
取締役	畑 下 裕 雄	1972年12月2日	1995年4月 1998年4月 2000年10月 2002年10月 2005年4月 2007年7月 2010年5月 2014年1月 2015年6月 2017年7月 2018年6月	朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人） 公認会計士登録 Arthur Andersen Portland事務所 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）マネージャー 株式会社プロキューブジャパン設立 代表取締役社長（現任） 公認内部監査人（CIA）認定 税理士登録 株式会社Lyudia（現Ingenico Japan株式会社）監査役（現任） 当社社外取締役（現任） 株式会社タジマ監査役（現任） 株式会社コラボス監査役（現任）	(注) 4	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	猪木 俊 宏	1968年 7 月 6 日	1998年 4 月 2004年12月 2007年 7 月 2009年 9 月 2011年 7 月 2013年 2 月 2014年10月 2016年 6 月 2016年10月 2016年12月 2018年 1 月	弁護士登録 三井安田法律事務所 三井法律事務所 特定非営利活動法人コモンズフ ィア理事（現任） サイバーボンド株式会社設立 代 表取締役（現任） 株式会社コンテンツアンドシステ ムズ取締役 猪木法律事務所開設（現任） 株式会社メルカリ社外監査役（現 任） 株式会社ゼロスタート（現ZETA株 式会社）社外監査役（現任） 当社社外取締役（現任） 株式会社アペルザ社外監査役（現 任） システムサービス株式会社社外監 査役（現任） 株式会社ハヤルカ社外監査役（現 任）	(注) 3	—
取締役	廣 瀬 正 佳	1968年 6 月 15 日	1992年 4 月 2008年 4 月 2009年 4 月 2014年 9 月 2016年 4 月 2018年 4 月 2018年 6 月 2019年11月 2019年11月	日商岩井株式会社（現双日株式会 社） 双日オートモーティブエンジニア リング株式会社（現双日オートラ ンス株式会社） 出向 双日欧州会社デュッセルドルフ支 店 双日株式会社電力・環境インフラ 事業部交通プロジェクト課課長 同社交通・社会インフラ事業部副 部長 同社エネルギー・社会インフラ本 部社会インフラ開発室室長（現 任） 当社社外取締役（現任） edotco Investments Singapore Pte. Ltd. Director（現任） edotco Myanmar Limited Director（現任）	(注) 3	—
取締役	大坂 祐 希 枝	1956年 3 月 15 日	1978年 4 月 1994年 9 月 1997年 9 月 2009年 7 月 2012年 3 月 2014年 7 月 2016年 2 月 2016年 5 月 2018年11月	株式会社日本短波放送（現株式会 社日経ラジオ社） 東京メトロポリタンテレビジョン 株式会社 日本衛星放送株式会社（現株式会 社WOWOW） 株式会社WOWOWカスタマーリレー ション局長 同社マーケティング局長 株式会社WOWOWコミュニケーションズ 取締役 マーケティングコンサルタント （現任） 株式会社明光ネットワークジャパ ン 同社取締役（現任）	(注) 3	—
取締役	遠 藤 友 美 絵	1968年 7 月 12 日	1991年 4 月 2004年 4 月 2013年10月 2017年10月 2019年 3 月	日商岩井株式会社（現双日株式会 社） ニチメン・日商岩井ホールディン グス株式会社（現双日株式会社） 出向 双日株式会社IR室IR課課長 同社人事総務部グローバル・ダイ バーシティ推進課課長 同社IR室室長（現任）	(注) 3	—

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)	野崎 國 弘	1942年2月19日	1997年12月 2001年4月 2005年6月	中央情報システム株式会社(現システムギア株式会社) 経営企画部部長 エスアールエス・さくらインターネット株式会社(現当社) 経営企画室室長 当社常勤監査役(現任)	(注) 5	—
監査役	梅木 敏 行	1955年6月19日	1994年12月 2001年2月 2006年9月 2008年10月 2014年4月 2014年9月	和港工業株式会社(現オシリス株式会社) 代表取締役社長 エスアールエス・さくらインターネット株式会社(現当社) 監査役 当社社外監査役(現任) オシリス株式会社取締役(現任) 明建工業株式会社取締役 明建工業株式会社代表取締役(現任)	(注) 6	—
監査役	長谷川 浩之	1968年12月29日	1991年9月 1996年4月 1996年5月 1998年11月 2000年11月 2010年7月 2010年12月 2016年6月 2018年3月	井上斎藤英和監査法人(現有限責任あずさ監査法人) 公認会計士登録 Arthur Andersen シンガポール事務所 松下寿電子工業株式会社(現PHCホールディングス株式会社) 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ) 長谷川公認会計士事務所開設 代表(現任) 税理士登録 当社社外監査役(現任) みのりパートナーズ株式会社設立代表取締役(現任)	(注) 6	—
監査役	杉尾 忠 彦	1969年11月18日	1993年4月 2000年4月 2005年3月 2012年6月 2017年6月 2017年7月	日商岩井株式会社(現双日株式会社) 日商岩井香港会社(現双日香港会社) 出向 双日株式会社財務部 Thai Central Chemical Public Company Ltd. Executive Officer 双日株式会社リスク管理企画部企画第二課課長(現任) 双日シェアードサービス株式会社 監査役(現任)	(注) 6	—
計						5,496,000

- (注) 1 取締役畑下裕雄、猪木俊宏、廣瀬正佳、大坂祐希枝及び遠藤友美絵は、社外取締役であります。
- 2 監査役梅木敏行、長谷川浩之及び杉尾忠彦は、社外監査役であります。
- 3 取締役田中邦裕、川田正貴、伊勢幸一、前田章博、猪木俊宏、廣瀬正佳、大坂祐希枝及び遠藤友美絵の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 取締役畑下裕雄の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役野崎國弘の任期は、2017年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役梅木敏行、長谷川浩之及び杉尾忠彦の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

② 社外役員の状況

有価証券報告書提出日現在における社外取締役3名及び社外監査役3名との関係については以下のとおりであります。

畑下裕雄氏は公認会計士及び税理士としての専門的な知識・経験を有しているため、その経験と知見により、当社の経営を適切に監督してもらうべく、独立性を有する当社の社外取締役として選任しております。株式会社プロキューブジャパンの代表取締役社長、Ingenico Japan株式会社の監査役、株式会社タジマの監査役及び株式会社コラボスの監査役を兼務しており、当社は、それらの会社との間で重要な取引関係等はございません。なお、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

猪木俊宏氏は弁護士としての専門的な知識・経験に加え、複数のベンチャー企業の監査役や取締役を務めるなど多角的な視点を有しており、当社の経営を適切に監督してもらうべく、独立性を有する当社の社外取締役として選任しております。特定非営利活動法人コモンズフィアの理事、サイバーボンド株式会社の代表取締役、猪木法律事務所の弁護士、株式会社メルカリの社外監査役、ZETA株式会社の社外監査役、株式会社アペルザの社外監査役、システムサービス株式会社の社外監査役及び株式会社ハヤルカの社外監査役を兼務しており、当社は、株式会社メルカリとの間でサービス提供についての取引関係がございますが、人的関係、資本的關係又はその他の利害関係はございません。また、その他の会社との間には、重要な取引関係等はございません。なお、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

廣瀬正佳氏は国内外の豊富なビジネス経験と、公共事業に代表される大規模プロジェクト等に関する幅広い知識を活かし、当社の経営を適切に監督いただくべく、当社の社外取締役として選任しております。双日株式会社エネルギー・社会インフラ本部社会インフラ開発室室長、edotco Investments Singapore Pte. Ltd. Director及びedotco Myanmar Limited Directorを兼務しており、双日株式会社は、当社のその他の関係会社であります。当社は、双日株式会社の企業グループと協力関係を保ちながら事業展開する方針であります。双日企業グループとは事業の棲み分けがなされているため、同氏の兼務の状況は、当社独自の経営判断を妨げるものではなく、一定の独立性が確保されていると認識しております。また、その他の会社との間には、重要な取引関係等はございません。

梅木敏行氏は長年の会社経営の経験があり、経営管理に精通していることから、その経験と知見により、当社の監査体制の強化を図るべく、独立性を有する当社の社外監査役として選任しております。オシリス株式会社の取締役及び明建工業株式会社の代表取締役を兼務しており、当社は、両社との間で重要な取引関係等はございません。

長谷川浩之氏は公認会計士及び税理士として会計に関する専門的な知識・経験を有するほか、事業会社での経理業務に従事した経験があり、その経験と知見により、当社の監査体制の強化を図るべく、独立性を有する当社の社外監査役として選任しております。長谷川公認会計士事務所代表及びみのりパートナーズ株式会社の代表取締役を兼務しており、当社は、両社との間で重要な取引関係等はございません。なお、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

星野隆弘氏は、長年の銀行勤務の経験に加え、リスク管理業務にも豊富な経験と知見を有しており、当社の経営を適切に監督いただくべく、当社の社外監査役として選任しております。双日株式会社海外業務部担当部長及び株式会社五島列島酒造取締役を兼務しており、双日株式会社は、当社のその他の関係会社であります。当社は、双日株式会社の企業グループと協力関係を保ちながら事業展開する方針であります。双日企業グループとは事業の棲み分けがなされているため、同氏の兼務の状況は、当社独自の経営判断を妨げるものではなく、一定の独立性が確保されていると認識しております。また、株式会社五島列島酒造との間には、重要な取引関係等はございません。

当社は、社外取締役の選任にあたり、以下の基準に該当する者は、独立性はないものと判断しております。

イ 当社を主要な取引先とする者又はその業務執行者

ロ 当社の主要な取引先又はその業務執行者

ハ 直近3年間のいずれかにおいて、法律、会計又は税務の専門家もしくはコンサルタントとして、1,000万円を超える額の支払いを当社から役員報酬以外に得た者（かかる額が法人又は組合等の団体（以下、「団体」という）に支払われる場合は、過去3事業年度のいずれかにおいて、当該団体の連結売上高の2%を超える額を当社から得た団体に所属する者）

- ニ 次に掲げる者の配偶者、二親等内の親族又は同居の親族
 - a イからハのいずれかに該当する者
 - b 当社の子会社の取締役又は業務執行者（重要な者に限る）
 - c 直近3年間において、bもしくは当社の取締役又は業務執行者（重要な者に限る）に該当していた者
- ホ 当社の主要株主又はその業務執行者
- ヘ 直近3年間のいずれかにおいて、1,000万円を超える寄付を当社から受けた者又は寄付を受けた団体の理事その他の業務執行者（重要な者に限る）
- ト 当社との間で、社外役員の相互就任関係にある団体の出身者
 - (注) 1 イにおける主要な取引先とは、直近3年間のいずれかにおいて、当該団体の連結売上高の2%を超える額を当社に支払った団体をいいます。
 - 2 ロにおける主要な取引先とは、直近3年間のいずれかにおいて、当社の連結売上高の2%を超える額の支払いを当社から得た団体又は当社の連結総資産の2%以上の額を当社に融資した金融機関をいいます。
 - 3 業務執行者とは、会社法施行規則第2条第3項第6号に規定する者をいいます。
 - 4 重要な者とは、部長相当以上の上級管理職に就く者をいいます。
 - 5 主要株主とは、当社の議決権の10%以上を直接又は間接に保有する株主をいいます。

また、当社は社外監査役を選任するための独立性に関する基準及び方針は定めておりませんが、証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。選任にあたっては、豊富な知識、経験に基づき客観的な視点から当社の経営等に対し、適切な意見を述べていただける方を選任しております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、会計監査や四半期レビューの報告等を通じて会計監査人と意見交換を行い、監査を実施しております。また、監査において必要となる情報収集は内部監査室が行っております。

社外取締役、監査役及び監査役会は、取締役会以外においても意見交換を行うなど連携を図っております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

イ 組織・人員

監査役会は常勤監査役1名及び社外監査役3名で構成されており、うち1名は公認会計士・税理士として財務経理に関して相当程度の知見を有する者であり、その他の監査役も、企業経営に関する高い見識、法律もしくは会計に関する豊富な経験を有している者であります。

ロ 監査役、監査役会の活動状況

各監査役は取締役会に出席し、経営の意思決定機関の監視を行い必要に応じて意見表明を行うほか、業務の執行を監視しております。また、グループ会社の監査役との報告・情報共有などの連携や内部監査を通じ、グループ会社における職務執行状況等について適切に報告を受けております。

常勤監査役は監査役会議長を務め審議を諮るほか、各種重要会議へ出席し情報共有を図るとともに稟議等重要な書類の閲覧などを行っております。

監査役会は毎月1回開催されるほか、必要に応じて随時開催されます。当事業年度では各監査役の出席率は100%であり、開催回数、内容、その他の活動等は以下のとおりであります。

監査役会開催回数 14回

決議 19件

報告 37件

その他勉強会開催（会社法改正、監査基準、新収益認識基準など）

ハ 当事業年度特に重点とした活動

当事業年度は、法令改正・監査基準改正及び新収益認識基準などの監査をめぐる新しい動向に対応ができるように、各改正項目に応じた社内の事務処理体制の整備状況点検に重点を置いて監査活動を行いました。しかし、事業年度末における点検作業は新型コロナウイルス感染症の影響により、翌事業年度に繰り越しております。

② 内部監査の状況

内部監査については、内部監査室（専任1名）を設け、内部監査専任の部署として担当しております。

会計監査人としての会計監査についてはEY新日本有限責任監査法人に委嘱しており、内部監査担当者及び監査役と連携しつつ、独立した立場からの公正不偏な監査が実施されております。

監査役と会計監査人との相互連携については、定期的な合同ミーティングを開催して、相互の情報交換を行っております。

監査役と内部監査室との相互連携については、合同ミーティングの開催、内部監査室からの定期的な報告及び監査役の補佐を行っております。

内部監査室と会計監査人との相互連携については、内部統制の整備及び運用に係る評価に関し、計画立案時及びテスト実施過程における意見交換を行っております。

なお、これらの監査の結果については、取締役会等を通じて内部統制部門に対して適宜報告がなされております。同様に、社外監査役に対しても、取締役会及び監査役会等において適宜報告及び意見交換がなされております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 継続監査期間

17年間

c. 業務を執行した公認会計士

仲下 寛司
小林 雅史

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士	会計士試験合格者等	その他
8名	7名	8名

e. 監査法人の選定方針と理由

当社がEY新日本有限責任監査法人を選定するにあたっては、監査法人の概要（品質管理体制、会社法上の欠格事由への該当の有無、独立性等を含む）、監査の実施体制（監査計画、監査チームの編成等）、監査報酬見積額等を総合的に判断して選定しております。

（会計監査人の解任又は不再任の決定の方針）

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨およびその理由を報告します。

f. 監査役および監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査法人に対して評価を行っております。監査法人の品質管理、監査チームの独立性や専門性等、監査報酬等、監査役等とのコミュニケーション、経営者等との関係及び不正リスクについて評価し、すべてにおいて適切または問題ないと評価しております。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	28,000	—	28,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	28,000	—	28,000	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a.を除く）

該当事項はありません。

c. その他重要な報酬の内容

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

d. 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容
前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
該当事項はありません。

e. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、事業の規模、監査日数及び前事業年度の監査報酬等を勘案したうえで決定しております。

f. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会は、会計監査人評価を行うなかで、その監査の品質等に加え、監査日数、前事業年度の監査報酬、同業同規模他社の監査報酬等を総合的に判断し、会社法第399条第1項の同意をしております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役及び監査役の報酬については、株主総会で決議された取締役全員及び監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額の範囲内において、各取締役の報酬額は、取締役会が決定し、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

取締役の報酬限度額は、2010年6月24日開催の第11回定時株主総会及び2018年6月26日開催の第19回定時株主総会において年額150,000千円以内（うち社外取締役30,000千円以内）と決議いただいております。また、これとは別枠で、2006年6月27日開催の第7回定時株主総会においてストックオプションに係る報酬として年額20,000千円以内の新株予約権の支給を決議いただいております。

監査役の報酬限度額は、2000年10月2日開催の臨時株主総会において年額20,000千円以内と決議いただいております。また、これとは別枠で、2006年6月27日開催の第7回定時株主総会においてストックオプションに係る報酬として年額10,000千円以内の新株予約権の支給を決議いただいております。

各取締役の報酬額は、代表取締役社長兼最高経営責任者田中邦裕が業務分掌の内容及び業績への貢献度などを総合的に勘案し、取締役会に提案のうえ、取締役会が決定しております。また、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。なお、当事業年度においては、役員の報酬制度等の決定方針の検討を行っております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	68,400	68,400	—	—	3
監査役 (社外監査役を除く)	9,600	9,600	—	—	1
社外役員	23,250	23,250	—	—	4

③ 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

④ 使用人兼務役員の使用人給与

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、事業シナジーと財務リターンで判断しており、事業シナジーがなく、財務リターンを重視する投資を純投資目的である投資株式、それ以外を純投資目的以外の目的である投資株式と区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

上場株式を保有していないため、省略いたします。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)
非上場株式	13	108,382

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	2	51,500	スタートアップ向けファンドへの出資等のため。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することが出来る体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,505,373	4,572,321
売掛金	2,002,302	2,306,310
商品及び製品	187,324	4,885
貯蔵品	813,727	704,789
その他	974,409	1,029,055
貸倒引当金	△30,796	△39,900
流動資産合計	9,452,342	8,577,462
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1, ※3, ※4 8,055,672	※1, ※3, ※4 7,693,800
工具、器具及び備品（純額）	※1 3,629,098	※1 3,118,790
土地	※3 640,139	※3 640,139
リース資産（純額）	※1 6,599,690	※1 6,105,336
その他（純額）	4,320	40,816
有形固定資産合計	18,928,921	17,598,884
無形固定資産		
その他	1,025,707	554,517
無形固定資産合計	1,025,707	554,517
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 124,753	※2 288,664
繰延税金資産	463,894	607,895
その他	1,170,002	1,166,246
貸倒引当金	△6,684	△6,444
投資その他の資産合計	1,751,966	2,056,362
固定資産合計	21,706,594	20,209,763
資産合計	31,158,936	28,787,225

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	693,737	690,592
短期借入金	833,000	1,268,000
1年内返済予定の長期借入金	※3 1,883,620	※3 1,902,990
リース債務	1,305,448	1,352,366
未払法人税等	220,865	233,105
前受金	3,393,200	4,276,814
賞与引当金	273,255	295,910
その他	2,983,807	1,439,907
流動負債合計	11,586,935	11,459,687
固定負債		
長期借入金	※3 6,089,244	※3 4,317,086
リース債務	5,867,046	5,361,625
その他	271,566	224,518
固定負債合計	12,227,857	9,903,230
負債合計	23,814,792	21,362,917
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,256,921	2,256,921
資本剰余金	1,361,862	1,366,388
利益剰余金	4,243,672	4,312,563
自己株式	△600,029	△600,029
株主資本合計	7,262,426	7,335,843
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△3
為替換算調整勘定	△831	411
その他の包括利益累計額合計	△831	408
非支配株主持分	82,548	88,056
純資産合計	7,344,144	7,424,308
負債純資産合計	31,158,936	28,787,225

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	19,501,463	21,908,899
売上原価	※1, ※2 14,155,609	※1, ※2 16,076,933
売上総利益	5,345,854	5,831,966
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	—	9,302
給料及び手当	1,408,291	1,494,757
賞与引当金繰入額	97,436	117,549
支払手数料	907,336	897,560
その他	2,365,582	2,373,590
販売費及び一般管理費合計	※2 4,778,645	※2 4,892,759
営業利益	567,208	939,206
営業外収益		
受取利息	57	348
受取配当金	2,448	3,672
持分法による投資利益	—	15,389
貸倒引当金戻入額	859	252
業務受託料	—	15,005
受取出向料	5,871	6,488
助成金収入	19,432	—
その他	14,207	21,980
営業外収益合計	42,876	63,135
営業外費用		
支払利息	191,605	197,629
持分法による投資損失	136	—
投資事業組合運用損	5,484	—
その他	17,017	15,068
営業外費用合計	214,243	212,697
経常利益	395,841	789,644
特別利益		
固定資産売却益	※3 4	—
国庫補助金等収入	311,213	77,202
受取補償金	—	10,000
特別利益合計	311,218	87,202
特別損失		
固定資産売却損	—	※4 2,527
固定資産除却損	※5 2,787	※5 13,473
減損損失	—	※6 405,838
固定資産圧縮損	265,277	77,202
投資有価証券評価損	103,045	—
災害による損失	12,043	—
その他	—	1,000
特別損失合計	383,154	500,042
税金等調整前当期純利益	323,905	376,804
法人税、住民税及び事業税	297,942	315,579
法人税等調整額	△122,406	△143,999
法人税等合計	175,535	171,579
当期純利益	148,369	205,224
非支配株主に帰属する当期純利益	56,730	45,133
親会社株主に帰属する当期純利益	91,639	160,091

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	148,369	205,224
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	777	△3
為替換算調整勘定	△645	1,242
その他の包括利益合計	※ 131	※ 1,239
包括利益	148,501	206,464
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	91,770	161,330
非支配株主に係る包括利益	56,730	45,133

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,256,921	1,361,862	4,246,084	△67	7,864,800
当期変動額					
剰余金の配当			△94,050		△94,050
親会社株主に帰属する当期純利益			91,639		91,639
自己株式の取得				△599,962	△599,962
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△2,411	△599,962	△602,373
当期末残高	2,256,921	1,361,862	4,243,672	△600,029	7,262,426

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△777	△185	△962	25,817	7,889,655
当期変動額					
剰余金の配当					△94,050
親会社株主に帰属する当期純利益					91,639
自己株式の取得					△599,962
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	777	△645	131	56,730	56,862
当期変動額合計	777	△645	131	56,730	△545,511
当期末残高	—	△831	△831	82,548	7,344,144

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,256,921	1,361,862	4,243,672	△600,029	7,262,426
当期変動額					
剰余金の配当			△91,200		△91,200
親会社株主に帰属する当期純利益			160,091		160,091
自己株式の取得					—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		4,525			4,525
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	4,525	68,891	—	73,416
当期末残高	2,256,921	1,366,388	4,312,563	△600,029	7,335,843

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	—	△831	△831	82,548	7,344,144
当期変動額					
剰余金の配当					△91,200
親会社株主に帰属する当期純利益					160,091
自己株式の取得					—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					4,525
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△3	1,242	1,239	5,508	6,747
当期変動額合計	△3	1,242	1,239	5,508	80,164
当期末残高	△3	411	408	88,056	7,424,308

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	323,905	376,804
減価償却費	2,529,559	3,022,923
減損損失	—	405,838
のれん償却額	129,404	52,133
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5,953	8,863
賞与引当金の増減額 (△は減少)	35,053	22,654
受取利息及び受取配当金	△2,505	△4,020
支払利息	191,605	197,629
投資事業組合運用損益 (△は益)	5,484	△935
固定資産除却損	2,787	13,473
国庫補助金等収入	△311,213	△77,202
固定資産圧縮損	265,277	77,202
固定資産売却損益 (△は益)	△4	2,527
投資有価証券評価損益 (△は益)	103,045	1,908
受取補償金	—	△10,000
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△199,607	199,607
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△99,048	448,600
売上債権の増減額 (△は増加)	△433,373	△301,119
前受金の増減額 (△は減少)	313,213	883,613
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△246,773	291,377
仕入債務の増減額 (△は減少)	172,379	△3,145
その他	△130,426	△546,058
小計	2,642,810	5,062,678
利息及び配当金の受取額	2,504	4,017
利息の支払額	△192,286	△197,362
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△221,753	△297,139
補償金の受取額	—	10,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,231,274	4,582,193
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,381,784	△2,754,540
無形固定資産の取得による支出	△173,406	△133,741
国庫補助金等による収入	153,629	155,995
投資有価証券の取得による支出	△105,615	△148,000
敷金及び保証金の差入による支出	△75,621	△93,719
敷金及び保証金の回収による収入	1,094	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	5,421	—
その他	4	412
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,576,277	△2,973,593

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,300,000	2,114,288
短期借入金の返済による支出	△730,000	△1,679,288
長期借入れによる収入	3,329,500	409,288
長期借入金の返済による支出	△885,444	△2,162,076
リース債務の返済による支出	△1,328,085	△1,366,964
セール・アンド・リースバックによる収入	351,111	371,306
割賦債務の返済による支出	△103,808	△102,149
自己株式の取得による支出	△602,113	—
配当金の支払額	△93,579	△90,796
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△35,100
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,237,580	△2,541,492
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	△159
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	892,626	△933,052
現金及び現金同等物の期首残高	4,612,747	5,505,373
現金及び現金同等物の期末残高	* 5,505,373	* 4,572,321

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

ゲヒルン株式会社

櫻花移動電信有限公司

アイティーエム株式会社

ビットスター株式会社

プラナスソリューションズ株式会社

IzumoBASE株式会社

当連結会計年度において、連結子会社であった株式会社Joe'sクラウドコンピューティングは、連結子会社であるビットスター株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、同社を連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 2社

会社等の名称

株式会社S2i

BBSakura Networks株式会社

当連結会計年度において、BBSakura Networks株式会社を新たに設立したことに伴い、同社を持分法適用の範囲に含めております。

持分法適用関連会社である株式会社S2iは、決算日が異なるため、連結財務諸表の作成にあたり、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

(2) 持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称

有限責任事業組合福岡市スタートアップ支援施設運営委員会

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない関連会社等は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に与える影響は軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、櫻花移動電信有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

② たな卸資産

商品及び製品、貯蔵品

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。ただし、2016年3月31日までに取得した建物及び構築物(石狩データセンターに係る建物及び構築物を除く)については、定率法を採用しております。

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

ソフトウェア(自社利用分) 主に5年(社内における利用可能期間)

③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

計上後5年以内でその効果の発現する期間にわたり定額法により償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(時価の算定に関する会計基準等)

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

(1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(以下「時価算定会計基準等」という。)が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

・「金融商品に関する会計基準」における金融商品

・「棚卸資産の評価に関する会計基準」におけるトレーディング目的で保有する棚卸資産

また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準)

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号2020年3月31日)

(1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(会計上の見積りの開示に関する会計基準)

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)

(1) 概要

当年度の連結財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「投資有価証券」については、金額的重要性が高まったため、当連結会計年度より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた1,294,755千円は、「投資有価証券」124,753千円、「その他」1,170,002千円として組み替えております。

また、前連結会計年度において、区分掲記しておりました「設備関係未払金」については、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度は「流動負債」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「設備関係未払金」1,914,309千円、「その他」1,069,497千円は、「その他」2,983,807千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	10,338,063千円	12,450,811千円

※2 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券	58,702千円	180,281千円

※3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	4,237,095千円	4,029,092千円
土地	640,139千円	640,139千円
計	4,877,235千円	4,669,232千円

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	387,720千円	365,970千円
長期借入金	1,532,550千円	1,166,580千円
長期借入金に対する銀行保証	1,500,000千円	1,500,000千円
計	3,420,270千円	3,032,550千円

※4 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	566,458千円	643,661千円

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
83,995千円	180,310千円

※2 一般管理費及び売上原価に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
65,516千円	97,882千円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
工具、器具及び備品	4千円	一千円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
工具、器具及び備品	一千円	2,527千円

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	1,242千円	396千円
工具、器具及び備品	1,510千円	11,485千円
リース資産	35千円	1,591千円
計	2,787千円	13,473千円

※6 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

場所	用途	種類	その他
東京支社 (東京都新宿区)	構築途上のプログラム等	無形固定資産(その他) 工具、器具及び備品 リース資産	システム開発費用及び端末 等
アイティーエム株式会社 (東京都新宿区)	事務所	建物及び構築物 工具、器具及び備品 リース資産 無形固定資産(その他)	内装設備等 ソフトウェア のれん等

当社グループは、独立したキャッシュ・フローを生み出すサービス単位においてグルーピングを行っております。

当社では、機器の運用管理システムの開発を2014年より続けておりましたが、当初想定した物理環境ではなくクラウド中心のニーズが高まったこと、また、当社は今後クラウドビジネスに集中していくという方針から、今後の使用が見込まれない構築途上のプログラム部分等について固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。その内訳は、無形固定資産(その他)285,770千円、工具、器具及び備品52千円、リース資産680千円であります。なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込めないため、使用価値はゼロと評価しております。

また、当社の連結子会社であるアイティーエム株式会社について、旧来事業の再編の遅れなどを背景に、足元の収益が伸び悩んだため、中長期的に収益の回復を図るべく事業及び経営体制の刷新を行うことといたしました。これに伴い、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物及び構築物25,906千円、工具、器具及び備品48,215千円、リース資産10,333千円、無形固定資産(その他)34,878千円であります。なお、当該資産の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込めないため、使用価値はゼロと評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	－千円	△3千円
組替調整額	777千円	－千円
税効果調整前	777千円	△3千円
税効果額	－千円	－千円
その他有価証券評価差額金	777千円	△3千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△645千円	1,242千円
その他の包括利益合計	131千円	1,239千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	37,620,700	—	—	37,620,700

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	444	1,140,200	—	1,140,644

(変動事由の概要)

2019年1月31日の取締役会決議による自己株式の取得 1,140,200株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	94,050	2.50	2018年3月31日	2018年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	91,200	2.50	2019年3月31日	2019年6月28日

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	37,620,700	—	—	37,620,700

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,140,644	—	—	1,140,644

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	91,200	2.50	2019年3月31日	2019年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	91,200	2.50	2020年3月31日	2020年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	5,505,373千円	4,572,321千円
現金及び現金同等物	5,505,373千円	4,572,321千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産 主としてデータセンター設備であります。

② リース資産の減価償却の方法

「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産 主としてホスティングサービスにおけるサーバやネットワーク機器であります。

② リース資産の減価償却の方法

「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内	923,130千円	1,134,943千円
1年超	2,025,867千円	1,877,666千円
合計	2,948,998千円	3,012,610千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

主にインターネットインフラ事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入やリース取引）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式や投資事業有限責任組合への出資金であり、発行体の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、販売管理規程及び与信管理規程に従い、営業債権について、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

また、外貨建ての預金及び営業債権債務については、残高が僅少であり、市場リスクを管理する重要性が低いと考えております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理財務部が適時に資金繰計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注2)を参照ください。)

前連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	5,505,373	5,505,373	—
(2) 売掛金	2,002,302		
貸倒引当金(※)	△30,796		
	1,971,506	1,971,506	—
資産計	7,476,880	7,476,880	—
(1) 1年内返済予定の長期借入金	1,883,620	1,883,620	—
(2) リース債務(短期)	1,305,448	1,305,448	—
(3) 長期借入金	6,089,244	6,078,199	△11,044
(4) リース債務(長期)	5,867,046	5,801,792	△65,253
負債計	15,145,358	15,069,060	△76,298

(※) 売掛金については対応する貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,572,321	4,572,321	—
(2) 売掛金	2,306,310		
貸倒引当金(※)	△39,900		
	2,266,410	2,266,410	—
資産計	6,838,731	6,838,731	—
(1) 1年内返済予定の長期借入金	1,902,990	1,902,990	—
(2) リース債務(短期)	1,352,366	1,352,366	—
(3) 長期借入金	4,317,086	4,288,223	△28,862
(4) リース債務(長期)	5,361,625	5,322,535	△39,090
負債計	12,934,068	12,866,115	△67,952

(※) 売掛金については対応する貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

すべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負 債

(1) 1年内返済予定の長期借入金、(2) リース債務（短期）

すべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) リース債務（長期）

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2019年3月31日	2020年3月31日
非上場株式	41,301	152,776
投資事業有限責任組合出資金	83,452	135,887

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから記載していません。

非上場株式について、前連結会計年度において103,045千円、当連結会計年度において、1,908千円の減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	5,501,612	—	—	—
売掛金	2,002,302	—	—	—
合計	7,503,915	—	—	—

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	4,570,110	—	—	—
売掛金	2,306,310	—	—	—
合計	6,876,420	—	—	—

(注4) 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	1,883,620	1,871,490	901,568	686,614	576,785	2,052,787
リース債務	1,305,448	1,217,812	1,033,614	855,795	1,185,644	1,574,180
合計	3,189,068	3,089,302	1,935,182	1,542,409	1,762,429	3,626,967

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	1,902,990	933,568	716,946	608,785	519,172	1,538,615
リース債務	1,352,366	1,173,254	997,886	1,330,194	559,682	1,300,608
合計	3,255,356	2,106,822	1,714,832	1,938,979	1,078,854	2,839,223

(有価証券関係)

連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金 (注) 2	223,027千円	220,808千円
前受金	122,545千円	133,120千円
減損損失	3,115千円	120,955千円
賞与引当金等	95,228千円	103,158千円
たな卸資産評価損	26,646千円	76,012千円
資産除去債務	62,959千円	73,505千円
固定資産未実現利益	26,762千円	69,295千円
投資有価証券評価損	34,821千円	32,898千円
未払家賃	39,882千円	28,188千円
未払事業税	24,589千円	23,698千円
貸倒引当金	11,428千円	14,346千円
資産調整勘定	6,841千円	10,962千円
減価償却費	5,865千円	6,679千円
未払事業所税	4,515千円	4,619千円
その他	16,498千円	12,464千円
繰延税金資産小計	704,729千円	930,712千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注) 2	△175,997千円	△220,808千円
将来減算一次差異等の合計に係る評価性引当額	△54,030千円	△94,794千円
評価性引当額小計 (注) 1	△230,028千円	△315,602千円
繰延税金資産合計	474,701千円	615,110千円
繰延税金負債		
資産除去費用	△8,732千円	△7,214千円
その他	△2,074千円	—千円
繰延税金負債合計	△10,806千円	△7,214千円
繰延税金資産純額	463,894千円	607,895千円

(注) 1. 評価性引当額が85,573千円増加しております。この増加の主な内容は、連結子会社アイティーエム株式会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を49,534千円及び減損損失に係る評価性引当額を30,163千円を追加的に認識したこと等に伴うものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度 (2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	—	—	—	5,957	40,095	176,974	223,027千円
評価性引当額	—	—	—	△5,957	△40,095	△129,945	△175,997千円
繰延税金資産	—	—	—	—	—	47,029	47,029千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度 (2020年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	—	—	4,765	40,095	40,916	135,031	220,808千円
評価性引当額	—	—	△4,765	△40,095	△40,916	△135,031	△220,808千円
繰延税金資産	—	—	—	—	—	—	—千円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.62%	30.62%
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.06%	3.71%
試験研究費に係る税額控除	△2.82%	△3.58%
賃上げ・生産性向上のための減税による税額控除	△10.25%	△13.01%
住民税均等割	3.03%	2.64%
のれん償却額	11.46%	3.85%
連結調整による影響額	△0.50%	△0.37%
評価性引当額の増減	18.94%	22.71%
その他	△0.34%	△1.04%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	54.19%	45.54%

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(連結子会社間の吸収合併)

2019年4月1日を効力発生日として、当社の連結子会社であるビットスター株式会社が当社の連結子会社である株式会社Joe'sクラウドコンピューティングを吸収合併いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業(存続会社)

名 称: ビットスター株式会社(当社の連結子会社)

事業内容: インターネットサービス事業、各種サービスインテグレート事業、
各種上記に関わるコンサルティング事業

被結合企業(消滅会社)

名 称: 株式会社Joe'sクラウドコンピューティング(当社の連結子会社)

事業内容: ホスティング事業、バーチャルオフィス事業等

(2) 企業結合日

2019年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

ビットスター株式会社を存続会社とし、株式会社Joe'sクラウドコンピューティングを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

ビットスター株式会社(当社の連結子会社)

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループとして事業シナジーの発揮や経営の効率化を達成することでさらなる成長を図るために本合併を実施いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

インターネットデータセンターの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から主に18年と見積り、割引率は主に2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
期首残高	129,160千円	131,172千円
時の経過による調整額	2,011千円	2,060千円
期末残高	131,172千円	133,232千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、インターネットインフラ事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	ハウジング	専用サーバ	レンタルサーバ	VPS・クラウド	その他	合計
外部顧客への売上高	2,643,971	3,998,266	3,277,393	5,305,888	4,275,943	19,501,463

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	ハウジング	専用サーバ	レンタルサーバ	VPS・クラウド	その他	合計
外部顧客への売上高	2,408,195	5,055,090	3,380,151	5,835,196	5,230,266	21,908,899

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは、インターネットデータセンター事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループは、インターネットデータセンター事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社の子会社	日商エレクトロニクス株式会社	東京都千代田区	14,336,875	ネットワークサービス業	なし	営業上の取引	機材の購入	110,216	買掛金	744
							サービスの提供	2,284	売掛金	27
									前受金	3,620
							保守サービスの利用	120,126	前払費用	25,460
									長期前払費用	29
									未払金	1,488

(注) 1. 機材の購入については、市場の実勢価格を勘案して発注先及び価格を決定しております。

2. 日商エレクトロニクス株式会社からの機材の購入の一部については、形式的には当社と第三者との取引であるものの、実質的には第三者を経由した当社と日商エレクトロニクス株式会社との取引による金額です。

3. サービスの提供及び保守サービスの利用の取引条件及び取引条件の決定方針等については、一般取引条件と同様に決定をしております。

4. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社の子会社	日商エレクトロニクス株式会社	東京都千代田区	14,336,875	ネットワークサービス業	なし	営業上の取引	サービスの提供	369,075	前受金	15,524
									売掛金	21,859
									長期前受金	3,354
							保守サービスの利用	12,248	前払費用	3,643
									長期前払費用	341
							ライセンス使用料	7,469	未払金	1,177
機材の購入	4,093	—	—							

(注) 1. 機材の購入については、市場の実勢価格を勘案して発注先及び価格を決定しております。

2. サービスの提供、保守サービスの利用及びライセンス使用料の取引条件及び取引条件の決定方針等については、一般取引条件と同様に決定をしております。

3. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	199.06円	201.10円
1株当たり当期純利益	2.44円	4.39円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	91,639	160,091
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	91,639	160,091
普通株式の期中平均株式数(株)	37,526,961	36,480,056

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	833,000	1,268,000	0.34	—
1年以内に返済予定の長期借入金	1,883,620	1,902,990	0.37	—
1年以内に返済予定のリース債務	1,305,448	1,352,366	2.42	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	6,089,244	4,317,086	0.26	2021年4月30日～ 2031年12月25日
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	5,867,046	5,361,625	2.65	2021年4月8日～ 2030年2月26日
その他有利子負債				
1年以内に返済予定の未払金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の設備関係未払金	107,724	82,436	—	—
設備関係未払金（1年以内に返済予定のものを除く。）	134,396	87,245	—	2021年4月26日～ 2024年9月26日
合計	16,220,479	14,371,750	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の当期末残高のうち、1,500,000千円は無利息であります。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	933,568	716,946	608,785	519,172
リース債務	1,173,254	997,886	1,330,194	559,682

4. その他有利子負債は、割賦契約に伴う未払金（長期を含む）及び設備関係未払金（長期を含む）であります。
5. その他有利子負債の平均利率については、債務総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
6. その他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
設備関係未払金	46,888	23,862	13,218	3,275

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	5,122,049	10,329,041	15,884,403	21,908,899
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (千円)	260,813	310,238	375,841	376,804
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	159,523	177,226	127,861	160,091
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	4.37	4.86	3.50	4.39

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純 損失(△) (円)	4.37	0.49	△1.35	0.88

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,674,124	3,520,641
売掛金	※1 1,613,815	※1 1,685,010
商品及び製品	189,439	4,885
貯蔵品	812,987	620,248
前渡金	26,431	21,747
前払費用	572,952	615,666
その他	217,496	101,281
貸倒引当金	△30,440	△32,488
流動資産合計	8,076,807	6,536,992
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2, ※3 7,898,390	※2, ※3 7,582,440
構築物	※2, ※3 111,884	※2, ※3 94,222
工具、器具及び備品	2,318,148	3,281,598
土地	※2 640,139	※2 640,139
リース資産	6,585,496	6,086,960
建設仮勘定	4,320	40,816
有形固定資産合計	17,558,379	17,726,178
無形固定資産		
のれん	4,777	—
商標権	13,782	14,779
ソフトウェア	574,868	413,341
その他	291,453	46,836
無形固定資産合計	884,882	474,958
投資その他の資産		
投資有価証券	66,051	108,382
関係会社株式	656,436	502,344
その他の関係会社有価証券	50,000	58,190
長期貸付金	—	※1 250,000
長期前払費用	273,252	329,283
繰延税金資産	376,016	524,566
その他	813,247	815,599
投資その他の資産合計	2,235,003	2,588,366
固定資産合計	20,678,266	20,789,504
資産合計	28,755,073	27,326,496

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	※1 361,180	※1 293,051
短期借入金	783,000	1,268,000
1年内返済予定の長期借入金	※2 1,827,876	※2 1,818,126
リース債務	1,284,593	1,333,892
未払金	※1 641,104	※1 575,075
設備関係未払金	※1 498,050	※1 126,995
未払費用	144,452	105,720
未払法人税等	133,807	155,087
前受金	※1 3,303,300	※1 3,963,122
預り金	44,636	21,121
前受収益	1,134	3,444
賞与引当金	254,283	277,889
その他	10,117	320,945
流動負債合計	9,287,536	10,262,471
固定負債		
長期借入金	※2 5,951,481	※2 4,133,355
リース債務	5,850,238	5,314,679
資産除去債務	131,172	133,232
その他	134,396	87,245
固定負債合計	12,067,287	9,668,512
負債合計	21,354,824	19,930,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,256,921	2,256,921
資本剰余金		
資本準備金	1,361,862	1,361,862
資本剰余金合計	1,361,862	1,361,862
利益剰余金		
利益準備金	43,548	43,548
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	4,337,945	4,333,213
利益剰余金合計	4,381,494	4,376,762
自己株式	△600,029	△600,029
株主資本合計	7,400,248	7,395,516
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	△3
評価・換算差額等合計	—	△3
純資産合計	7,400,248	7,395,512
負債純資産合計	28,755,073	27,326,496

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	※1 16,894,207	※1 18,547,419
売上原価	※1 12,456,815	※1 13,720,365
売上総利益	4,437,391	4,827,054
販売費及び一般管理費	※1, ※2 3,718,196	※1, ※2 4,015,738
営業利益	719,194	811,315
営業外収益		
受取利息	54	344
受取配当金	2,448	3,672
貸倒引当金戻入額	241	—
業務受託料	—	16,505
受取出向料	※1 37,191	※1 22,777
助成金収入	19,432	—
その他	5,907	11,731
営業外収益合計	65,275	55,030
営業外費用		
支払利息	188,732	194,249
その他	19,879	13,109
営業外費用合計	208,612	207,359
経常利益	575,857	658,986
特別利益		
固定資産売却益	4	—
国庫補助金等収入	311,213	77,202
関係会社株式売却益	—	8,984
特別利益合計	311,218	86,186
特別損失		
固定資産除却損	2,780	13,213
固定資産除売却損	—	787
固定資産圧縮損	288,465	77,202
減損損失	—	286,503
投資有価証券評価損	103,045	—
関係会社株式評価損	129,059	206,176
その他	12,043	1,000
特別損失合計	535,393	584,883
税引前当期純利益	351,681	160,289
法人税、住民税及び事業税	218,052	222,369
法人税等調整額	△54,819	△148,547
法人税等合計	163,233	73,821
当期純利益	188,448	86,467

【売上原価明細書】

区分	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 器材費	1,095,347	8.8	1,278,909	9.3
II 労務費				
1 給料及び手当	1,542,146		1,723,577	
2 法定福利費	228,883		254,063	
労務費合計	1,771,030	14.2	1,977,641	14.4
III 経費				
1 通信費	1,305,040		1,127,223	
2 賃借料	3,142,560		3,428,460	
3 消耗品費	71,679		55,993	
4 減価償却費	2,207,147		2,730,285	
5 電力費	802,562		856,113	
6 修繕費	673,173		761,508	
7 その他	1,388,273		1,504,229	
経費合計	9,590,438	77.0	10,463,814	76.3
売上原価	12,456,815	100.0	13,720,365	100.0

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,256,921	1,361,862	1,361,862	43,548	4,243,547	4,287,096
当期変動額						
剰余金の配当					△94,050	△94,050
当期純利益					188,448	188,448
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	—	—	94,397	94,397
当期末残高	2,256,921	1,361,862	1,361,862	43,548	4,337,945	4,381,494

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△67	7,905,813	△777	△777	7,905,035
当期変動額					
剰余金の配当		△94,050			△94,050
当期純利益		188,448			188,448
自己株式の取得	△599,962	△599,962			△599,962
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			777	777	777
当期変動額合計	△599,962	△505,564	777	777	△504,787
当期末残高	△600,029	7,400,248	—	—	7,400,248

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	2,256,921	1,361,862	1,361,862	43,548	4,337,945	4,381,494
当期変動額						
剰余金の配当					△91,200	△91,200
当期純利益					86,467	86,467
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	—	—	△4,732	△4,732
当期末残高	2,256,921	1,361,862	1,361,862	43,548	4,333,213	4,376,762

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差 額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△600,029	7,400,248	—	—	7,400,248
当期変動額					
剰余金の配当		△91,200			△91,200
当期純利益		86,467			86,467
自己株式の取得		—			—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			△3	△3	△3
当期変動額合計	—	△4,732	△3	△3	△4,735
当期末残高	△600,029	7,395,516	△3	△3	7,395,512

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他の関係会社有価証券

投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、貯蔵品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。ただし、2016年3月31日までに取得した建物及び構築物（石狩データセンターに係る建物及び構築物を除く）については、定率法を採用しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

ソフトウェア（自社利用分） 主に5年（社内における利用可能期間）

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 (区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	31,282千円	33,529千円
長期金銭債権	—千円	250,000千円
短期金銭債務	475,063千円	145,679千円

※2 担保資産及び担保付債務

(1) 担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
建物	4,236,645千円	4,028,743千円
構築物	449千円	349千円
土地	640,139千円	640,139千円
計	4,877,235千円	4,669,232千円

(2) 担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	387,720千円	365,970千円
長期借入金	1,532,550千円	1,166,580千円
長期借入金に対する銀行保証	1,500,000千円	1,500,000千円
計	3,420,270千円	3,032,550千円

※3 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
圧縮記帳額	566,458千円	643,661千円
(うち、建物)	557,774千円	634,977千円
(うち、構築物)	8,683千円	8,683千円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	265,201千円	187,188千円
仕入高	1,196,406千円	1,046,777千円
販売費及び一般管理費	72,506千円	82,570千円
営業取引以外の取引による取引高	37,191千円	1,510,595千円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
貸倒引当金繰入額	一千円	2,234千円
給料及び手当	1,057,777千円	1,207,593千円
賞与引当金繰入額	97,263千円	106,738千円
減価償却費	287,651千円	285,087千円
支払手数料	836,588千円	875,990千円
おおよその割合		
販売費	39%	40%
一般管理費	61%	60%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
子会社株式	646,936	394,844
関連会社株式	9,500	107,500
計	656,436	502,344

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
前受金	122,545千円	133,120千円
関係会社株式評価損	39,517千円	102,649千円
賞与引当金等	88,762千円	97,002千円
減損損失	3,115千円	90,792千円
たな卸資産評価損	26,646千円	76,012千円
資産除去債務	62,670千円	67,112千円
投資有価証券評価損	34,821千円	32,898千円
未払家賃	39,882千円	28,188千円
未払事業税	17,531千円	16,854千円
貸倒引当金	9,320千円	9,947千円
未払事業所税	4,290千円	4,619千円
減価償却費	4,299千円	4,415千円
その他	14,300千円	14,840千円
繰延税金資産小計	467,705千円	678,454千円
評価性引当額	△82,956千円	△146,673千円
繰延税金資産合計	384,748千円	531,781千円
繰延税金負債		
資産除去費用	△8,732千円	△7,214千円
繰延税金負債合計	△8,732千円	△7,214千円
繰延税金資産純額	376,016千円	524,566千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.04%	△15.42%
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.15%	7.21%
寄付金の損金不算入	0.55%	13.57%
試験研究費に係る税額控除	△2.60%	△8.42%
貸上げ・生産性向上のための減税による税額控除	△9.30%	△24.60%
住民税均等割	2.28%	5.01%
評価性引当額の増減	20.21%	39.75%
源泉所得税	△0.14%	△0.47%
その他	1.69%	△1.19%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.42%	46.06%

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	10,595,053	276,328	78,369	514,679	10,793,013	3,210,572
	構築物	187,858	—	—	17,661	187,858	93,636
	工具、器具及び備品	5,551,704	2,096,474	387,053 (52)	890,253	7,261,125	3,979,526
	土地	640,139	—	—	—	640,139	—
	リース資産	10,843,398	783,294	410,686 (680)	1,279,557	11,216,005	5,129,045
	建設仮勘定	4,320	36,496	—	—	40,816	—
	計	27,822,475	3,192,593	876,109 (733)	2,702,152	30,138,959	12,412,781
無形固定資産	のれん	40,953	—	—	4,777	40,953	40,953
	商標権	24,646	3,046	—	2,049	27,693	12,913
	ソフトウェア	2,111,030	125,605	—	287,132	2,236,636	1,823,294
	その他	329,368	81,994	320,853 (285,770)	5,756	90,508	43,672
	計	2,505,999	210,646	320,853 (285,770)	299,716	2,395,792	1,920,833

(注) 1. 当期増加額及び減少額のうち主なものは次のとおりであります。

(1) 建物の増加額

石狩データセンター設備 225,706千円

(2) 工具、器具及び備品の増加額

石狩データセンターサーバ機器等 1,826,068千円

(3) リース資産の増加額

石狩データセンターサーバ機器等 533,185千円

西新宿データセンターサーバ機器等 62,406千円

堂島データセンターサーバ機器等 61,791千円

(4) 工具、器具及び備品の減少額

サービス提供用サーバ機器等のリースバック 227,840千円

(5) リース資産の減少額

サーバ機器等のリース期間満了 410,005千円

(6) その他(無形固定資産)の減少額

在庫管理システム制作費用の減損 285,770千円

2. 「当期首残高」及び「当期末残高」は取得価額により記載しております。

3. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	30,440	5,748	3,700	32,488
賞与引当金	254,283	277,889	254,283	277,889

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 — 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 https://www.sakura.ad.jp
株主に対する特典	毎年3月31日及び9月30日に100株以上保有の株主に対し、クオカード500円分を贈呈いたします。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第20期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) 2019年6月14日近畿財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年6月14日近畿財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第21期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) 2019年8月8日近畿財務局長に提出。

第21期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日) 2019年11月11日近畿財務局長に提出。

第21期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日) 2020年2月10日近畿財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

2019年7月5日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書

2020年4月27日近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月15日

さくらインターネット株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 仲 下 寛 司 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 林 雅 史 ㊞

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているさくらインターネット株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、さくらインターネット株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、さくらインターネット株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、さくらインターネット株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- 2 X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月15日

さくらインターネット株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 仲 下 寛 司 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 林 雅 史 ㊞

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているさくらインターネット株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第21期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、さくらインターネット株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- 2 XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。